

金光学園

やっなみ

2023.12



266号



体育会

ほつま祭



部活動紹介

天文部

天文部は現在、中学生14名、高校生5名で活動している。毎週金曜日の放課後に、望遠鏡の整備やほつま祭に向けた準備、夜間観測の計画を立てるなど、それぞれテーマを持って取り組んでいる。天文部の中心となる活動は毎月の校内夜間観測である。季節や時期によって観測できる天体や星座、天文現象が異なり、計画を立てるのも楽しみの一つである。観測で撮れた写真や成果はほつま祭の宇宙展で展示をしている。年間活動の中で最大のイベントは、夏休みの合宿である。



例年お盆の時期にベルセウス座流星群がやってくるので、それに合わせ合宿を組んでいる。高梁市の弥高山キャンプ場で行っており、晴れていれば満点の星空を楽しむことができる。流星群の写真を撮ることはもちろんのこと、日頃天体観測に親しむことがない人も、この合宿で天体写真の撮り方を習得できる貴重な機会である。また、例年OBの参加によって活動がさらに活気づいている。大学の生活や研究内容などを話題に現役生と語り合い、互いの繋がりを大切にしている。



その他にも美星天文台の10cm反射望遠鏡で、専門的に天文学を学ぶ研修を行ったり、探究授業で課題研究に挑戦している人もいます。星や宇宙に少しでも興味がある人はぜひ天文部といっしょに活動して、宇宙の神秘を探究してみよう！

陸上競技部

陸上競技部は現在、中学生18名、高校生13名(高3含む)の男女合計31名で活動しています。自己記録の更新や、大会での活躍を目標に毎日活動する生徒から、体力の維持向上を目標に、都合の良い日に参加する生徒など、個々の目標が様々なのが特徴の部活動です。



日々の練習は中高合同で実施しているのですが、幅広い人間関係の中で練習ができます。中学生は真剣な上級生と関わることで、部活動だけでなく学業や生活面でも得るものが多いのではないのでしょうか。



日本刀を作る過程で刀鍛冶は、熱した刀をハンマーで叩き上げて「鍛錬」します。飛び散る火花と共に不純物が抜けていき、何度も何度も繰り返すことで切れ味鋭い日本刀が出来上がります。陸上競技も日々の練習は自分を叩き上げる「鍛錬」です。仲間と切磋琢磨して「真剣」に頑張る生徒を応援するのが陸上競技部です。

「時代の変化に対応した活力ある保護者会を目指して」

植田 和明

9月に開催された「ほつま祭」は4年ぶりのフルバージョンでの開催となり、未来への一歩を踏み出す機会となりました。

「笑顔満ち咲き誇れ金光魂」この統一テーマの通り、生徒たちの笑顔が溢れ、未来への希望を示すものとなり、多くの思い出と共に楽しめました。

今回のほつま祭では新たな試みとして、学園マルシェが開催されました。コンビニエンスストアやパン屋さんの出店、そして5台のキッチンカーによる美味しい料理の提供は、大いに盛り上がりました。この初めての試みには課題も見えましたが、ブラッシュアップして次年度に繋げられたらと考えます。

今年度、金光学園やつなみ保護者会は、優良PTA文部科学大臣表彰を受賞しました。第72回全国高等学校PTA連合会宮城大会にて、岡田会長が代表としてこの榮譽を受け取りました。この受賞式に保護者会役員数名で参加してきましたが、1万人を超える参加者の前で賞を受けられる様子は、誇らしく思えました。金光学園やつなみ保護者会の時代に即した活発な取り組みが評価された証であります。

過去も現在も、時代は大きく変化しています。AI、IoT、ブロックチェーン、ロボット、ビッグデータ、空飛ぶクルマ、自動走行車レベル5などの新たなテクノロジーやコロナ禍など環境の変化が、生活と学習に影響を与えています。保護者の皆様と先生方と協力し、生徒の心身の健やかな成長と勉学の成就に貢献できるように、時代の変化に適応し、未来に向けた新しいアプローチを模索し、金光学園やつなみ保護者会の活動がより一層充実したものとなることを願っています。

(金光学園やつなみ保護者会副会長)

目次

巻頭言	1
金光学園創立42年記念式	2
道	10
活躍する卒業生	12
山岡 由明	12
メタセコイア	14
活躍おめでとう	17
やつなみ保護者会のページ	22
友愛セールご協力のお礼	25
会報	25
中2 Kibi Autumn Adventure	27
国際交流活動報告	30
中2 広島平和研修	35
高2 修学旅行	38
ほつま祭	50
体育会	54
学童サマースクール	60
ある日のホームルーム	62
生徒会活動	65
学園だより	77
教室の窓から	80
編集後記	

金光学園創立129年記念式



式辞

校長 金光 道晴



昨日まで爽やかな秋晴れの日が続いていましたが、今日は未明から雨が降り始めました。本来ならこの式典に先立ち、全生徒・全教職員がそろって、金光学園部にここまでのお礼とこれからのお願いの参拝の後、木綿崎山の教祖様の奥城や教団墓地、そして左の写真の初代校長佐藤範雄先生の頌徳碑を参拝して、この創立記念式に臨むところでしたが、あいにくの雨で、参拝・巡拝が出来なかったのは残念なことであります。しかし、高3の足立琉威君と中3の藤田和加菜さんが代表しての参拝をすることができましたし、今日こうして学園創立129年の記念式を4年振りにご来賓の方々をお招きし、

金光学園創立129年記念式が、11月10日、厳かに挙行された。残念ながら雨天のため、全生徒による本部参拝は中止され、朝8時45分、校長と代表生徒（高3足立琉威君、中3藤田和加菜さん）が本部広前に参拝し、教主金光様にお礼のお届けをした。

ほつま体育館に、25名の「ご来賓をお迎えし、金光学園中学・高等学校の生徒851名、教職員が一堂に会し、10時20分に音楽部吹奏楽団と音楽部コーラスによる「神人の栄光」の演奏で祭事が始まった。まず、学校法人金光学園理事長和泉正一先生の祭詞に始まり、各代表より玉串が奉奠された。

式典では、国歌斉唱の後、25年勤続の岡田伸彦教諭、藤原俊浩教諭が表彰を受けた。続いて校長式辞、金光教総務部長祝辞、生徒代表の所願表明の後、金光学園歌斉唱で式典は締めくくられた。

休憩の後、11時30分から塩出純二氏（岡山済生会総合病院 院長、高23回卒業）より記念



講演をいただいた。演題は「これまでを振り返って大切に思うこと」。

医者を目指し、僻地医療経験等を経て岡山済生会総合病院に赴任した後の様々な「活躍を、パワーポイントを使用しながら熱心に語られた。」「置かれた場所で最善を尽くす」、「何がチャンスとなるか分からないから、どんなことにもチャレンジしてみる」、「出会いを大切に」、「エンジョイワーキングを志す」など、未来に羽ばたく後輩達に熱いエールを送られた。

その後13時35分にほつま体育館で全教職員

麗しく挙行させていただきました事は、誠に有り難く嬉しいことであります。

「ご来賓の皆様には本日は公私ともご多用の中、また足元のお悪い中、ご臨席を賜り誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。」

さて、この創立記念式の校長式辞では、毎年学園の歴史や卒業生など学園に縁のあるお話をしております。金光学園は言うまでもなく、金光教を母体に設立されたのでありますが、本日は金光教の教祖様の事とその孫にあたる、この向かって右側の写真の三代金光様についての話をさせて頂こうと思っております。

と申しますのも、教祖様が生まれられたのは20年以上の前の1814年（文化11年）で江戸時代であります。お国替えになられたのは明治になっての1883年（明治16年）で、今年が140年というお年柄になります。その後をお受けになった二代の金光様はその10年後に40歳という若さで亡くなられ、そして更にその後をお受けになったこの写真の三代金光様は、その跡を13歳でお受けになり、83歳まで70年間御用に当たられ、お国替えされ、今年がお亡くなりになられ



て60年というお年柄にあたり、今年が教祖140年、二代様130年、三代金光様60年という記念の年にあたるのであります。

教祖様は「人が助かりさえすればよい」という言葉を残されているように、学校を設立することは考えておられなかったものであります。金光学園は教祖様が亡



くなられて11年後に、学問や教育の必要性を強く感じておられた初代校長になられた佐藤範雄先生によって創立され、今年129年になりました。先程も申しましたが、向かって左側の写真は初代校長佐藤範雄先生であります。

金光学園では「人をたいせつに 自分

をたいせつに 物をたいせつに」という言葉を学園の合言葉として大切にしていますが、これも教祖様の「人の身が大事かわが身が大事か 人もわが身もみな人」という教えがもとになって出来たものですし、このステージの上に掲げられている「生神金光大神 天地金乃神 一心に願え おかげは和賀心にあり」は「天地書附」と言われ、明治六年に布教差し止めを言い渡される中で、定まったと言われているのですが、金光教では神前をはじめ、その目当てとして様々な場所に掲げられるものであります。

通常お寺や神社には御本尊とかご神体というものが祀られています。金光教にはそのようなご本尊とかご神体といわれるものはなく、この天地自然の働きそのものが神の働きであり、敢えて言うならこの天地自然が本尊であり、ご神体であるといってもよく、人間は神様の間を分けて通っているようなものであると考えられています。

しかし、何かの目安や拠り所になるように見える形として、この天地書附を示されたものであります。そして、その中でお陰は「和賀心にあり」と書かれてい



ますが、「和賀心」は平和の「和」と祝賀の「賀」の字が当てられ、和らぎ喜ぶ我が心におかげはがあると教えられています。悲しんだり、怒ったり、心配したり、悔やんだり、憎んだり、恨んだりする心の中には良きもの（おかげ）は生まれてこないと言われるのであります。

三代金光様は攝胤様と言われますが、先程お話ししましたように、今年でお隠れになられてから60年でありますが、かつて、今の金光学園の理事長にあたる校長というお役に就いておられた方でもあります。

雨でなければ参拝する予定であった木綿崎山の教団墓地は、歴代教主の奥城でありますので、この三代の攝胤様も祀られておられます。三代様は、教祖様が亡くなられた跡をうけられた二代金光様が、40歳という若さで亡くなられたため、この三代金光様は実に13歳という若さでその跡を受け継がれることになりました。そして83歳でお国替えなされるまで、実に70年間、お正月もお盆も日曜日も祝祭日も一日も休みもなく、それも毎朝の早朝4時から、夕方まで、ひたすら金光教の本部広前で、人々のために祈り続け



られ、お取次のご用に当られた方であります。

13歳と言えば今の中学一・二年生の年齢です。友達と遊んだり、朝もゆっくりに寝たかたまりという時もあったと思えます。攝胤様はご自身の若い時のことを振り返られて、次のように語られています。

「最初のうちは辛うて辛うてよう泣きましたがなあ。親様の教えを守らしてもろうて、泣く泣く辛抱しいしいに、座つてりましたら、欲しいものも、考えること

も、いつの間にかなくなりましてなあ。ありがとうて、ありがとうてならぬようになりましてなあ。なんぼう御礼を申しても、足りませんのじゃ。御礼の足りませぬお詫びばかりしておりますが、勿体ないことであります」と言われるのであります。

しかし一方で、ご神勤40年以上たつたのある日のことですが、「何十年つとめても、油断がなりません。『にちにちがさら』です」ともおっしゃられたという話が伝えられています。「何年たつても日々の改まりが大切で油断がならない自分である」と、ご自身を戒められておられるのであります。

私達は毎日毎日と同じような日の繰り返しと見え、ついつい惰性で過ごしたり、反対に前日のことを翌日に引きずったり、先送りにして過ごしたりすることがしばしばあります。三代金光様は日々を思い返し、日々改まりの気持ちを持って迎え、毎日を大切に過ごしていくことが大事だとおっしゃるのであります。

今日の創立記念式も、そうであります。毎年同じように行われている恒例の一行事には違いありませんが、そのようなと

らえ方でなく、今日は金光学園の一年に一度の大切な誕生日ですから、ここまでのことに心からの感謝と御礼を申し、これから、また新たな心持ちで出発するための大切な日なのであります。教祖様も、「信心は日々の改まりが第一である。毎日元日の心で暮らし、日が暮れたら大晦日と思い、夜が明けたら元日と思って暮らすことが大切である」とも教え下さっています。

しかし、私達の日常の生活の中には、日々様々な問題が起こってまいります。もちろん楽しいこと、嬉しいこと、元氣の出ることも沢山ありますが、反対に悲しいこと、残念なこと、苦しいことも、次々に起こってまいります。しかし、そのような日常だからこそ「にちにちがさら」であります。毎日を新しい気持ちで迎え、今日、その日、その時、その時を一生懸命大切に生きていくことこそが大事なことだと思っております。どうぞ皆さんも今日今日を「にちにちがさら」の気持ちで迎え、過ごしていただきたいと思います。そしてどうぞここからも一層金光学園の良き伝統を受け継ぎ、大切に、さらに発展させていっていただ

忘れないように、私たち一人ひとりのためにこのような合言葉が生まれたものと思います。

ここから皆様方は、お一人お一人が大きな願いをもつて進んでいかれるのであります。その願いに向けて進む中で、いつも忘れてはならないのが、この合言葉だと思えます。

世界がどのように変わろうとも、そして、周囲の人がどのような対応であろうとも、人をたいせつにし、自分をたいせつにし、物をたいせつにするという在り方は、決して忘れてはならないことでもあります。自分の心の中に刻み、心の中にしっかりと持ち続けていくことが大切だと思わさせていただきます。

金光教の教祖様のみ教えをもとにして、初代校長の佐藤範雄先生の願いがあり、129年間続いてきた金光学園であります。この合言葉は、決して自分一人だけではなく、後々の一人ひとりにまで伝わって欲しいとの願いから生まれた合言葉だと思えます。生徒の皆様一人ひとりも、改めてこの合言葉を心の中に刻み込みまして、毎日の生活を元氣な心で、前を向いてお過ごしいただきたいと思います。

きたいと思っております。共々に頑張ってくださいませよう。

それでは最後に金光学園の合言葉を申し上げて、創立記念式の式辞とさせていただきます。「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」学園129歳の誕生日、誠におめでとうござります。

来賓祝辞

金光教総務部長 山本 正三



本日は、教務総長に代わりまして、金光学園129年目の誕生日であります創立記念式に参加させていただきました。一言お祝いを述べさせていただきます。

先ほど校長先生のお言葉にありましたように、この学園は、金光教の教祖様の信心をもとに作られた学校であります。

簡単ではありますが、本日の祝辞とさせていただきます。おめでとうござります。

所願表明

生徒代表 新谷 莉子



私達の金光学園は、今年で創立129年を迎えました。金光学園の素晴らしい伝統や「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」という合言葉が、多くの先輩方のお力によって受け継がれ、より良いものへと発展していき、今日、私達に受け継がれてきたことに心から感謝し、129年のお年柄を迎えられたことをお祝いしたいと思います。

さて、皆さんは社会貢献という言葉

この学園の中で育てられた方々は、一人ひとり皆、金光教の教えに少しずつでも触れてお育ちになられた方々だと思わさせていただきます。

そのような学園の気風というものは、私たちが生きていく上で大切な中身を持つていると思えます。とりわけ、合い言葉であります「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」という言葉は、金光教の教祖様の「人の身が大事か、わが身が大事か、人もわが身もみな人」とのみ教えからきております。

この言葉は、改めて頂きなおしてみますと、「人をたいせつにする」あるいは「自分をたいせつにする」、このことは誰もがができることであります。しかしながら、このことが毎日の生活の中で、ついついできなくなってしまうというのが現実でもあります。

人のことを一生懸命に思わさせていただきます、そして自分を何よりも大切にさせて頂きたいと思いつつも、そのバランスが崩れてしまったり、あるいは、物をたいせつにしたいと思いつつも、それを粗末にしてしまうなど、そういう生活になりがちであります。そうしたことを

聞いてどんな活動を思い浮かべますか？多くの人がボランティア活動や最近のニユースなどでよく見かけるSDGsの取り組みを思い浮かべると思います。確かにそういった活動も社会貢献の一つであることは間違いありません。社会貢献とは、よりよい社会を作っていくための行動のことだからです。しかし、私たち中高生が取り組んでいるそういった活動のほとんどは、大人が計画し、学校を通して募集されるものだと思います。いざ、中高生だけの力でボランティアやSDGsなどの取り組みをしようと思うと、何に焦点を当て、どんな活動をすればいいのか、決断すべきことがあまりに多く、結局途中で諦めてしまったり、とりあえず活動してはみたものの、自信が持てず、それが本当に社会貢献になっているか確信が持てなかつたりします。以前の私は、社会貢献という言葉を知ると、とても大変で凄いことをしなくてはならないと考えていました。皆さんの中にも私と同じような捉え方をしている人が少なからずいると思います。「社会を変える」とか「世界を変える」と聞くと、人は無意識のうち



学生である私達には何もできないと思ひ込んでしまいます。でも、私はある活動を通して、小さなこと、身近なことから始めることの大切さに気付くことができました。

その活動は、私が友人たちと高校三年

間を通して行ってきたSDGsに関する取り組みです。私達は、企業の方に協力していただき、製品を製造した際に発生する端材を使って何ができるかを考える取り組みに参加しました。最初に取り組みだのは、様々な色の端材を貼り合わせて製品の形を模したオブジェを製作することです。そこから発展して、現在では端材を切り貼りした知育教材を作り保育園へ寄付をする、という活動になりました。この活動を進めていく中で、企業の方がおっしゃった、「あんなに子供たちが喜んでくれて、これが本当の社会貢献だね」という言葉がとても心に残っています。私はこの言葉がきっかけで、社会貢献とは「誰かが喜んでくれることをする」という意外にシンプルなことだったと気づくことができました。

では、私たちにできる身近な社会貢献とは何でしょうか。私は、金光学園の合言葉である、「人をたいせつに」自分をたいせつに「物をたいせつに」を常に心の中に留めておき、日常生活で実践していくことだと思ひます。この合言葉は、社会貢献の根本にある考え方と同じだと思ひます。この合言葉を、私だけでなく



家族や身近な友達が実践していけば、それがどんどん周りの人から人へと広がって、ひいては、国境を越え、世界中に広がっていきます。合言葉は「世界の人々をたいせつに、すべての人が自分を大切に、みんなでものを大切に」という意味に拡大するのです。今、私が実践すれば0が1に変わります。それはわずかな変化で

しかないかもしれません。しかし、金光学園には、園児、生徒や先生方を合わせて約一二〇〇人も人がいます。ここにいる全員が、0を1にする努力をすることができるとは、先に述べた通り金光学園は創立120年を迎えました。歴代の先輩方が今日まで受け継いでくださった建学の精神を、私達が受け継ぎ、社会貢献に繋げていきたいと心から願っています。

最後にになりましたが、私は、素晴らしい合言葉を持つ金光学園に入学し、学ぶことができることに心から感謝し、金光学園の教育目標である、「世のお役に立つ人」になれるように、これからも日々、合言葉を実践していきたいと思ひます。金光学園のさらなる発展を願ひ、所願表明とさせていただきます。

お届け

おはようございます。金光様、日々ご祈念いただき有難うございます。

私たちが通う金光学園中学・高等学校は、今年創立120年を迎え、本日創立記念式を挙行させていただきます。

生徒を代表して、これまでお世話になったすべてのものに感謝し、お礼申し上げます。

今年度は様々な学校行事でコロナ禍以前の賑わいが戻ってきました。そして学園生活での貴重な思い出をたくさん作ることができました。学園生全員がこれからの金光学園の発展に向けて心一つにし、高い志を持って、学習、部活動、諸行事に全力で取り組みます。

特に、高校三年生におきましては、受験を目前に控え、追い込みの時期に入っておりますが、全学年のひとりひとり健康で、また、それぞれの目標を達成することができますよう、お取次ぎをお願いいたしますとともに、今後ともお祈り添えをいただきますよう、よろしくお祈り申し上げます。



生徒代表

高3 足立 琉威
中3 藤田和加菜

「戦争と平和」

「戦争と平和」という題を掲げると、トルストイの長編小説の「戦争と平和」をイメージする人が多いと思いますが、今回は、今世界で起こっている戦争について、何とかすることはできないものかと祈るような気持ちと、収束の目途が立たず、どうにもならないという苛立ちというか、やりきれない気持ちの中で、「戦争と平和」について述べさせていただけようと思います。

21世紀になって、なおこんなことが起きるのか？ 世界人類は20世紀の度重なる戦争を経験し、その大きな反省に立って、この平和な世紀、21世紀を迎えたはずだったのに、ロシアによるウクライナの軍事侵攻によって引き起こされた戦争はあと数か月で2年を迎えることになりませんが、未だに収束する目途は全く立たず、今もなお多くの人の命が奪われ続けています。

そして今は10月に始まったイスラエルによるガザ地区のイスラム組織ハマスへの激しい戦争が、毎日報じられるようになり、2か月になろうとしています。死者の数も双方合わせると一万数千人に及び、小さな子供達の命まで失われているニュースを見るたびに、いたたまれない気持ちになってしまいます。

本来、国際平和と安全の維持、経済・社会・文化などに関

人との土地の主権争いの問題なのです。もちろん、それに関する宗教的、民族的、政治的な様々な問題が長い歴史の中で、根深く複雑にかかわっているの、簡単に説明できる問題ではないのであります。

そしてその問題の様々な原因や経過をいくら明らかにしたからと言って、この問題が解決するわけではありません。AIを開発し、人間が宇宙に行けるような時代になっても、国、宗教、民族、政治、経済、文化の違いを超えて仲良く協調していくことができず、破壊しあい、殺し合いをつづけている人々がいるというのはなぜでしょうか。またそれを止めることも、やめさせることもできないのでしょうか。この文章は11月下旬に書いていますが、先日やっと4日間の停戦合意に基づき、一部の人質や収監者の交換が始められたという報道がなされていますが、まだまだ予断は許されず、和平交渉に至るのは程遠いと思われま

人類史上最も悲惨な第2次世界大戦から、もうすぐ戦後80年を迎えますが、我が国でも、戦争の悲惨な体験の上に立って、平和国家としての歩みが続け、世界平和に向けての取り組みを続けてきましたが、今、我々に何ができるのでしょうか？ もちろん我が国としては、あらゆる外交ルートを通し、また国連の一員として、多くの国との連携の上に立って、戦争を停止させ、平和を訴え続ける努力を続けて行かなければならないと思いますし、その事によって、半歩でも一歩でもその歩みを進めて行かなければならないと思います。私達一人一人の力は本当に微力であつても、平和を願い祈り続けること、関心を持ち続けること、小さなことでも平和への取り組みを

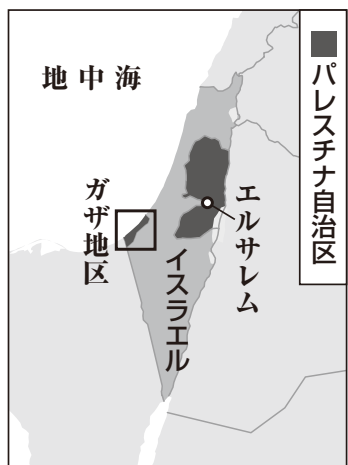
しての国際協力の実現を目的に設立された国際連合もその働きの上で、全く機能しているとは言えない状態が続いています。

そもそも、イスラエルとパレスチナはなぜあのように対立しなくてはならないのかは、一言で説明できるような問題ではありませんが、歴史的、政治的、宗教的、民族的な様々な問題が複雑にかかわりあっているのではありません。そもそもイスラエルというユダヤ人国家が建国されたのは19世紀終わりから始まったシオニズム運動（故郷を失い、流浪の民となったユダヤ人の国を建国しようとする運動）の結果、その後の第2次世界大戦中のドイツ・ナチスによるユダヤ人の大量虐殺が行われたことへのヨーロッパ諸国の深い反省も手伝って、1948年に世界で唯一ユダヤ人国家が今のイスラエルの地にできたのでありますが、既にそこには長年アラブ人（パレスチナ人）が住んでいたため、パレスチナ人はユダヤ人によって土地を奪われ、ガザ地区といわれる、東西5〜8km、南北50kmの倉敷市の面積ぐらいの所に、倉敷市の約5倍の230万人以上の人が住んでいる地区と、ヨルダン川西岸の地域に追いやられました。そして、この2つの地区は独立した国として認められず、パレスチナ自治区と呼ばれるようになり、周辺諸国を巻き込んだの対立が続いてきており、第2次世界大戦後、第1次〜第4次の中東戦争を経て現在に至っているのではありません。

エルサレムにはユダヤ教（嘆きの壁）・キリスト教（聖墳墓教会）・イスラム教（岩のドーム）の聖地があり、パレスチナ問題とは、一言で言えば、この「約束の地」にイスラエルを建国したユダヤ人とそのせいでこの地を追われたパレスチナ

続けることしか出来ないと思うのであります。ロシアのウクライナへの軍事侵攻や、イスラエルとパレスチナの戦争のように、自分たちの言い分だけを主張し、相手への攻撃を続けていたのでは、決して解決に繋がっていかないことは明白です。そこには何としても相手への理解・寛容・妥協などが必要になってくると思います。もちろん、自分の家族が殺されたり、奪われたりしたことによる憎しみ・恨みは、いかばかりかと思いますが、相手を攻撃することだけでは、何も良きものは生まれてこないことは言うまでもありません。「おかげは『和賀心』にあり」（和らぎ喜ぶ我が心にあり）であります。そして、「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の学園の合言葉こそが、平和を生み出す大切な心であると思います。悲惨な戦争が起きている中で、最も大切なことと改めて感じているところであり、平和実現の原点だ

と思うところでありま



友達を大切に

株式会社瀬戸内百姓代表

山岡 由明 (第62回卒)



「経営を学びたい」という漠然とした考えで大学に進学し、卒業後も地元で働きたいという思いがありました。ただ、当時の私は「営業」が苦手で、人としやべることに抵抗感がありました。でもいざ求人誌を開いてみたら「営業」や「製造業」が多く、こんなに営業職が世の中で求められているのなら、自分の苦手を克服しておいた方がいいと思い、府中市内の作業服メーカーに就職しました。「3年間は頑張ろう」と思ってやり始めた営業でしたが、いざやってみて、ある程度仕事のコツが分かってくるとだんだん楽しくなってきました。

営業職を始めて1年半が過ぎた頃、学園時代に友人だった斎藤大器くんから「一緒に大阪で仕事をしないか」と声を掛けられました。「3年間」という目標があっ

たので、その時は断りました。でも斎藤くんはさらに1年後またやってきて、「一緒にやろう」と誘ってくれました。今から思えばその時の斎藤くんは、絶対私に「うん」と言わせるために、身なりもよくして「良い生活しているなあ」と私に思わせるような仕掛けをしてきていました。

2年10ヶ月ほどのサラリーマン生活を終え、いざ大阪にやってきたものの、最初はなかなかうまくいかず斎藤くんにお世話になりっぱなしの生活でした。でも一緒に仕事をしながら彼からいろいろなことを学びました。仕事は主に人材派遣業で、「仕事がしたい人」と「仕事をしてもらいたい人」をつなげる仲介が主な仕事内容です。仕事を始めた当初は、私たちもお金がないので、とにかく高収入の職場ばかりを紹介していました。その方が私たちも儲かるからです。でもそれではだめだと気付きました。「仕事がしたい人」の理由は単に「お金が欲しい」というものではなく、キャリアを身につけたり、向上させたりしたいという人が多く、そのためには「仕事がしたい人」の綿密なヒアリングが必要でした。「仕事が欲しい人」の人生プランを一緒に考え

最適な職場を紹介する。今流行りの中途採用『ビズリーチ』のアナログ版みたいなことをしていたのです。

大阪に来て2年半が経った頃、コロナが流行り業務が全てテレワークでできるようになりました。その頃は「次のステップに行きたい」と考えるようになりました。大阪に誘ってくれた斎藤くんは当時、投資家として目覚ましい活躍をしていました。同じ年の彼が自分にはできないやり方で成功を掴んでいる、そう思いました。でも自分には「投資」は向いていないと分かっていました。自分の強みを生かして彼に負けない活躍してみたい、と強く思うようになったのです。そうして「自分は農業をしてみたい」と斎藤くんに言い、尾道に帰ってきました。当時大阪での仕事を辞めることを、斎藤くんにはさんざん反対されました。でも私の仕事軌道に乗った今、商品を買ってくれたり、SNSで宣伝してくれたりと応援してくれています。業種が違いますがそれ良い関係が築けていると感じています。

尾道に帰ってきてまず始めに「瀬戸内百姓」を創業しました。この社名には「瀬戸内の一次産業に携わる」という思いを

込めています。私は30代ですが、一次産業の中では超若手の部類に入ります。ですから「体を動かして何でもやります」をモットーに「ジモティ」のアプリで「農業のお手伝いします」と募集をかけたのが始まりです。

応じてくれた方の中には外国人もいました。中国とシリアの方でした。二人とも自国は農業ができる環境ではなく、日本にチャンスを求めてやってきていました。だから日本の農業従事者よりよほど農業に対する意識が高かったです。その人たちと関わって日本の農業が持つ可能性に気付きました。さらにお手伝いで知り合った尾道在住の70代や80代の方々のつながりも広がっていききました。

「農業のお手伝い」も相手からの連絡を待つだけでなく、例えばお年寄りの農家を持つ土地を開墾したこともありました。竹やぶだった土地をきれいにしたら、家に太陽の光が当たるのが2時間早くなったと喜ばれました。「どうすれば人のためになるか」「今」の人は何に困っているのか」を相手と対話しながら探り、要求に応えていく。こうすることで地域に根付いた活動ができるようになりました。こ

れは大阪での経験があったからこそできたのだと思います。お札に農作物を頂くようになり、それを売っていたところ、40年前から農家をやっており今年で十代目になる方から「うちのレモンを売ってみないか？」と声を掛けられました。それが主力商品「怪獣レモン」の始まりです。今は情報化社会でAIもどんどん進化しています。経営をする上で便利なツールを使うのは当たり前ですが、私が日頃念頭に置いているのは「売りたいものをあげる」ということです。私は今結果としてレモンを売っていますが、常に「相手が何を欲しがっているか？」を気にしています。そのためには相手とのコミュニケーションが必須です。どんなに情報ツールが発達しても人と人が関わり合う「仲介業」がなくならない理由もそこにあるのではないかと考えています。

学園生の皆さんもたくさん友達を作って下さい。そのためにはたくさん遊んで豊かな経験を積んでください。今の私があるのは友達のおかげです。これから世の中に出ていく皆さんに、良い出会いがあることを願っています。

メタセコイア

山本善直中学教頭 私学教育功労者表彰（県知事表彰） を受賞

令和5年11月6日（月）、山本善直中学教頭は、岡山県庁で私学教育功労者表彰を受賞されました。

先生は昭和62年4月に金光学園に奉職され、国語科教諭・担任・学年主任などを歴任されました。部活動ではバレーボール部顧問として25年間活躍され、全国大会出場のご貢献をされました。平成23年4月から中学教頭に就任され、その間グローバル教育・探究学習など多くの面で尽力されました。

おめでとございます。引き続き金光学園教育にご尽力下さい。

「この度県知事より私学教育功労者表彰をいただきました。学園着任以来37年目を迎え、卒業生でも金光教関係者でも



大学卒業後、岡山県で私学教員として勤務を開始し、すでに三十数年が経過しました。当初は、「すぐ地元に戻って教員を」と考えていましたが、岡山の居心地の良さについて居ついてしまいました。教員としては、多くの方々のおかげで何とかここまで務めることができました。いつまで教壇に立つことができるかわかりませんが、感謝の気持ちを忘れず、体力の続く限り頑張りたいと思います。（内村）

やつなみ保護者会 優良PTA文部科学大臣表彰を受賞

金光学園中学・高等学校 やつなみ保護者会には、8月24日～25日に開催された「第72回全国高等学校PTA連合会大会宮城大会」にて、優良PTA文部科学大臣表彰を授与されました。

ない私が、ここまで勤めさせていただきましたことに、心より感謝申し上げます。恐縮いたしております。職場の皆さま、保護者の皆さま、地域の皆さまからの温かいご支援の賜物と実感しています。これからも置かれた場所で咲くことを大切に、今月今日の有り難さを噛みしめながら学園教育の一端を支えてまいりたいと願っています。皆さま、ありがとうございます。



授与式に参加したやつなみ保護者会会長 岡田祥平氏は、「今回、私が代表として受賞式に参列させていただきましたが、この学校を想う諸先輩方による活動の積み重ねと、それに対する関係各位のご助力があったからこそ、この受賞に繋がっていることに、心からの敬意と感謝を忘れてはならないと感じております」と受賞の感想を述べられています。

やつなみ保護者会活動のますますの発展を祈念申し上げます。



中島寛教諭、内村政司教諭 岡山県私学協会功労者表彰を受賞

令和5年度岡山県私学教育研修会において、中島寛教諭と内村政司教諭が、岡山県私学協会功労者表彰を受賞されました。おめでとございます。引き続き金光学園教育にご尽力ください。



この度岡山県私学協会より表彰していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りしまして、関係していただきました全ての方にお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。これからも自分の立場で、少しでもご恩返しができるように頑張っていきたいと思っております。ありがとうございます。（中島）

第36回国際平和ポスターコンテスト に姉妹そろって2年連続受賞！



金光ライオンズクラブ主催による第36回国際平和ポスターコンテストで、中2の生藤紗々さんが最優秀賞を、生藤紗知さんが優秀賞を受賞しました。10月27日に校長室で行われた表彰式で、ライオン

ズクラブ会長から賞状が手渡されました。
生藤紗々さん・紗知さん姉妹は昨年もそれぞれライオンズ賞・優秀賞を受賞しており、二人そろって2年連続の受賞となりました。

「思いがけず、最優秀賞をいただくことができました。私は正直、絵を描くことはあまり得意ではありません。でも、上手な絵を描こうとするよりも自分が伝えてみたいことを絵に表現することを大切に描いてみました。今、世界では争っている国もありますが、手を取り合っていて笑顔の花がいっぱいに咲いてほしいという思いを込めた作品です。最優秀賞をいただくことができて本当に光栄です。」と語るのには、最優秀賞を受賞した生藤紗々さん。

「優秀賞をいただけるとてもうれいです。今回、私が描いた絵のポイントは、国籍も年齢も関係なく世界が一つになってほしいと願いを込めて描いたところ。みんなの指を組み合わせて一つの星をつくっているところは、手の甲を向けている人と手のひらを向けている人がいたり、手の色や大きさが違ったりなど、それぞれの違いを認め合える世界になっ

てほしいという思いを込めました。」と語るのには、優秀賞を受賞した生藤紗知さん。お二人とも、本当におめでとございませう。

金光学園の柱時計が復活！ 基礎をかため、難しいものにも挑戦

中1 小幡 昂輝

僕は今まで三、四十ぐらいの時計を分解清掃している。この中には金光学園の古時計も入っている。なぜ学園の古時計修理をしたのか。

きっかけは6月に高校の時計好きの先生と知り合えたことだ。早退する時たまに保健室にその先生がいて少し時計の話で盛り上がり、修理できることも伝えた。その土曜に早速依頼が。しかも先生個人のものではなく学園の八角時計だった。正直おどろいた。依頼されたからにはしっかりと修理して動くようにした。八角時計は分解・清掃をしているため、1、2年は動く。正面玄関で今も動いている。そのほかにも、学園の時計や先生個人から依頼を受けている。もちろん修理した。本当に感謝でしかない。

現在は掛置時計のみ対応しているが、

活躍おめでとう

高校男子バレーボール部
インターハイ出場

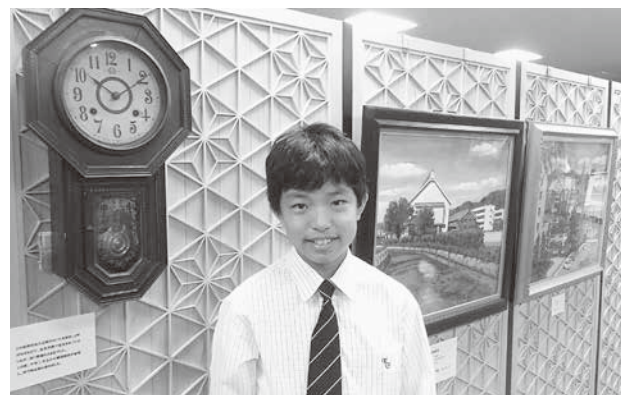
高3 一谷 優陽



私たちは、8月7日～12日に北海道旭川市で開催されたインターハイに出場し、ベスト16という結果で終わりました。予選グループ戦では、全国優勝経験もある山梨県代表の日本航空高等学校と対戦しました。接戦をものにし、ストレートで勝利することができました。決勝トーナメントは2回戦からで、青森県代表の弘前工業高等学校と対戦しました。1セット目を取られました。2、3セット目を取り、逆転勝利することができました。ベスト8を懸けた3回戦では、昨年度インターハイ王者の京都府代表の東山高等学校と対戦。ストレートで負け、力の差を感じました。

選手全員が初めてのインターハイで、緊張もありましたが、保護者やOBの方々の感謝の気持ちを忘れず、楽しくプレーをすることができました。今大会での経験を活かし、次の全国大会へとつなげて

腕時計などでもできるようになる予定です。練習している。今後は時計士を目指して頑張ろうと思う。



いきたいと思っています。
これからも応援よろしく願っています。

中学男子バレーボール部
中国大会の感想

中3 永廣 拓斗

地区大会は優勝、県大会は準優勝を経て中国大会のきつぷを掴みました。結果は、ベスト8で中学校生活最後のバレーボールが終わりました。そこで、中国大会の思い出を話していきたいと思います。

まず最初は、最後の試合です。相手は、八本松というチームでした。1セットを先取しましたが、その後2セット取られてしまい負けました。自分はエースとしても少し頑張れたなと後悔がありました。中学校でのバレーボールが終わるとすぐ高校の練習に参加するのでこの悔しさを高校でもしっかりと胸に、頑張っていきたいです。

次に、保護者への感謝です。3年間親が自分たちのためにたくさん動いてくれたから今の自分があるし、中国大会にも行けたんだと思います。まだ後3年間あるので自分たちのことを応援してほしい

です。ありがとうございます。
3つ目は、後輩です。2年前は自分たちが1番下の学年で全国大会に出場しました。そのときの先輩方はとても強く頼もしかったのを今でも覚えています。それから2年が経ち自分たちが先輩になりました。今までの先輩方より頼もしくなかったと思うけど、ついてきてくれて嬉しかったです。



く、これまで出場してきた県大会とは会場の雰囲気も全く違いました。その中でも、大会の優勝者と同じコートで競い、トップレベルの実力を直接見ることができたのは良い経験になりました。
僕自身は、準決勝敗退という非常に悔しい結果に終わってしまいました。全大会に出場するまでにたくさんの人たちに支えていただきました。自分の努力



水泳中国大会出場

中3 小川 聡太

僕は8月5日から8月6日に倉敷市の児島マリナプールで開催された中国大会に出場した。

3週間前に行われた県大会では100m平泳ぎで1位、200m平泳ぎで3位という結果だった。100m平泳ぎは好タイムで優勝することができたのだが、200m平泳ぎは1年生二人に破れ、とても悔しい思いをした。2種目とも中国大会出場の切符を手にしたので中国大会での悔しさを晴らそうと思った。



中国大会初日は200m平泳ぎだった。予選は8位とあまり納得のいかない結果だった。そのため決勝ではいつもと少し泳ぎ方を変えてみた。決勝は、予選よりも楽しく泳ぐことができた。結果は5位と悔しい思いをしたが、3つも



順位をあげられたので嬉しかった。大会二日目は本命である100m平泳ぎに出場した。予選は3位と0.1秒差で4位だった。3位を取りたいという一心で決勝戦に臨んだ。決勝は緊張でうまく泳げるか不安だったが自分の泳ぎに自信を持つことで最後まで頑張ることができた。結果は4位と1秒差をつけて3位を取ることができた。表彰台に登った時の嬉しさを忘れることはないと思う。
僕はこの中国大会で最後まで諦めないことの大切さを痛感した。

中・高少林寺拳法部全国大会出場 全国大会を終えて

中3 田淵伸太郎

8月19日から20日にかけて新潟県で行われた全国中学生少林寺拳法大会に出場しました。全国大会はとてもレベルが高

は当然ですが、先輩方や先生、家族の支えがなければこの場に立つことはできませんでした。本当に感謝しています。
これからの目標は、いつも助言をくださる存在であり、同時に僕が少林寺拳法を始めるきっかけにもなった先輩の成績を超えることです。そのためにさらに努力し、心身を錬磨したいと思います。

少林寺拳法から学んだこと

高3 原田 大地

私は7月21日から23日に北海道旭川市で開催されたインターハイで男子単独演武の部に出場した。私は今大会までに実践してきたことがある。それは部活ノートを作ったことだ。ノートには苦手な技のコツをまとめ、練習の計画を立てたり、反省を書き込んだりした。こういった毎日の積み重ねの結果から、県総体を勝ち抜き、今大会に出場できたと考えている。中高6年間の競技生活を通して、目標を持つことと、続けることの大切さを学ぶことができた。残念ながら、当初目標としていた全国大会入賞は叶わなかったものの、自分自身と同じように少林寺拳法と真剣に向き合う同志たちと同じ土俵で



戦えた経験は一生忘れることのない思い出となった。

この経験をもとに、大学では勉強・スポーツの両分野で努力を続け、さらに人として飛躍していけるように日々励むつもりだ。

2023アジアペタンク選手権大会出場

高1 木下 瑞穂

8月17日〜20日にマレーシアで行われた「2023年アジアペタンク選手権大会」に高1木下瑞穂さんが出場しました。

「私はマレーシアで行われたアジアペタンク選手権大会に出場した。結果は目標としていた予選突破を、惜しくも逃してしまい、とても悔しく、まだまだ練習が必要だと思った。

特に、優勝した体のチームは技術がとても高く、日本のチームとの圧倒的な差を痛感した。

しかし、大会に参加していたジュニアに限らず、様々な国の選手と、日本国内



倒され4位という悔しい結果で終わりました。しかし、課題を見つけ、多くのことを学び次につながる経験になりました。熱心に指導してくださる顧問の先生、支えてくれる家族、切磋琢磨し合える仲間や先輩がいるありがたさを改めて感じました。全中の悔しさをバネにコッコツと練習を重ね、精神的にも強くなり高校ではインターハイで雪辱を果たしました。皆さんの応援はとても力になりました。ありがとうございました」

電気科学部

WRO Japan 2023 in Tokyo 出場

8月26日に東京浜松町で行われた「WRO Japan 2023 in Tokyo」のROBOMISSIONジュニア部門ミドル競技に、中学1年の坂本理都・大胡峻太郎くんが出場しました。7月30日に岡山市の岡山情報ビジネス学院で行われたWRO Japan 中四国予選会で1位となり、全国大会への出場となりました。

1回目は、事前に発表されていたルールで行われました。調整をしたものの、なかなかうまくいかず、思ったような点数をとることはできませんでした。2回

の大会では経験ができない交流ができた。これからもペタンクの練習や英語以外の言語の勉強にも励みたい。」

中学陸上競技部

U16陸上競技大会 走幅跳優勝

中3 佐藤 地央



10月に愛媛県ニンジニアスタジアムで行われた「U16陸上競技大会」走幅跳の部門で中3佐藤地央さんが優勝しました。

「これまで全国大会には何度か出場させてもらいました。大きな記録を残せた全国大会が初めてなので嬉しいです。日本室内陸上競技大会の標準記録突破に向けて、5m80cmや85cmを出したかったので

目は、その場でルールが発表され、すぐに新しくプログラムを作り、競技をするというものでした。作ったプログラムが思ったようには動かず、苦労しましたが、できることを確実にできるように組んだので、思った動きをすることができました。成績はなかなか取れませんが、自分たちで考え、調整していくという経験を、これからの活動に生かしていきたいと思います。



記録的には満足していません。冬季トレーニングではスピードを重視した練習を積んでいきたい。来シーズンは高校一年からインターハイを目指します。まずは5m80〜90cmを安定して出せるようになり、さらなる記録に挑戦していきたいです」

中学陸上競技部

全日本中学校陸上競技大会出場

競走大会出場

8月に愛媛県で開催された全日本中学校陸上競技大会に400mリレーで、伊藤瑞さん、佐藤地央さん、水流和々花さん、瀧本椰々子さんが出場しました。

「高校で雪辱を果たす」と語るのは伊藤さん。

「3年連続で出場し予選敗退、6位入賞と最後となる今年は優勝を目指していましたが、周りに圧



表紙の言葉

2年4組 元廣 ゆい

「降る雪や 玉のごとくに ランプ拭く」この句から私は、冬の外が暗くなってきた頃、当時貴重な明かりだったランプを、まるで珠玉のように大切に、丁寧に拭いている様子を思い浮かべました。真っ暗な夜を乗り越えるための希望であるランプを大切に扱うように、私たちもこの厳しい現実を乗り越えられるような希望となる存在を見つけて、それを大切にしていきたいのだと思います。

私は、この版画を彫るときに、ランプを拭く人物の目を、優しく、大切そうにランプを見つめているような目になるように彫りました。微妙な目の形の調整は、版画だと表現しにくかったのですが、実際の情景を思い浮かべながら下絵の時点で細部までこだわって、下絵通りになぞって彫りました。

「雪」や「ランプ」といった言葉から、冬らしさと暖かみを感じたので、窓の外は青や紫といった冷たい色で冬らしさを表現し、部屋に広がるランプの光の色をイメージして塗り、暖かみも表現しました。作品のように、現実を生きる希望を見つけ、大切に扱えるようになりたいです。

やつなみ保護者会のページ

「活気あふれるほつま祭」

高2保護者

高校2年生になる息子にとっては5年目となるほつま祭。3年間のコロナ禍もあり、学校での様子を中々伺い知ることができなかったが、今年は演者となり舞台に立つとのこと。内向的なわが子の、仲間と共に作り上げた作品を目の当たりにした時、計画から練習、そして本番までの時間と経験がどれだけ素晴らしいものだったのかと。そして一緒に笑い合い、意見をぶつけ合える仲間に出会えていることに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今年も多くは多くの教室を回り、様々な展示を見ることができましたが、どのクラスも、創意工夫をしており、人に興味を持って見てもらおう為にはどのようにしたらいいかが考えられていて、とても楽しいものでした。また各教室にいる生徒たちの

活気に満ちている様子や、友達と展示を回っている生徒たちが楽しく笑い合っている姿を見てみると、学園全体を取り囲むかのような、パワー溢れる空気を感ずき、金光学園のほつま祭が帰ってきたのだというのを大いに実感できた瞬間でもありました。

ほつま祭の実施にあたり、ご尽力いただきましたやつなみ保護者会役員の皆様、先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

「笑顔あふれる体育会」

高校体育会
高2保護者

我が子は朝から髪型作りに余念がない。母はいつもより少し気合いの入ったお弁当作りに集中。今日は平日。通常通り学校に行っただの子のためにも、ビデオにカメラに父は忙しい。「あつ、あそこにいるよ。」友達と二緒にこちらに向かって笑

「60枚の思い出」 中学体育会

中3保護者

今年の体育会は息子が入学して初めての制限のない体育会でした。そして中学最後の運動会でもありました。さらに春から娘も1年生で2人そろっての最初で最後の中学体育会でした。2人とも2週間程度の短い時間で応援合戦の練習をしたり、吹奏楽は演奏の練習もあつたりとほつま祭後、一気に忙しく準備しているようでした。

当日はJRが大幅に遅れるというハプニングがあつたものの、何とか10時にはスタートできるということで、急いで学校に向かいました。すでに運動場は保護者で一杯に埋まっており、観客の熱気を感じます。

体育祭の始まりは行進から。本当に数年ぶりに行進を見ました。吹奏楽の演奏で行進する姿は皆誇らしげで、かっこよくてそれだけで感動しました。

そのあとに行われた100m、200m、900m、リレーなどの競技では全力で競い合う姿を見ることが出来ました。また、クラス

対抗リレーやムカデ競争、大縄跳びなどを合わせて行う競技は仲の良さや雰囲気の良い良さを感じることができました。そして意外にも綱引きが大変な盛り上がりで、こんなに盛り上がった綱引きを見たのは初めてでした。

最大の見せ場である応援合戦は各兄弟学級が趣向を凝らしてすくままとまつていて、甲乙つけがたい出来でした。ダンスや歌の上手い子が活躍するのはもちろん、おそろいのクラスTシャツのデザインや衣装など、見どころが一杯でした。

家に帰って当日来られなかった家族にも写真を見せて、会話も弾みます。2人を必死で追いかけて撮った結果、650枚も写真を撮っていました。見せられる方も大変な量です。

写真を見ながら、2人ともとてもいい笑顔で、金光学園にご縁をいただけて本当に良かったなどと改めて思いました。

顔でポーズ。我が子を見ても、他の子たちを見ても笑顔が絶えない。みんな楽しそう。保護者も自ずと笑顔になる。中学生の応援合戦のような見せ場は少ないが、リレーや綱引きなど勢いやスピードに圧倒される。練習が少ない中で、ムカデ競争や長縄跳び、30人31脚、びっくりするほど息が合っているチームも。長縄跳び前のコールがユニークで保護者も生徒も爆笑。「ああ〜こけちゃう。」「後少し、頑張れ！」思わず応援に力が入る。興奮の間に体育会の幕が閉じる。さすが、3年生。1位と2位を飾る。家でビデオを見ながら我が子の解説が始まる。「この子は誰？」友達の名前が飛び交う。家族の笑い声があふれる。「あく楽しみにしていたことが全部終わっちゃった」とぼつり。まだまだ楽しいことは待ってるよ。

最後になりましたが、体育会開催にあたり、ご尽力いただきました先生方、職員の方々に心より感謝いたします。

やつなみ保護者会研修旅行

高2保護者



11月15日、晴天。教養部主催のやつなみ保護者会の研修旅行が4年ぶりに開催されました。今年度はほつま祭が、コロナ禍での制限がほとんどない中での開催だったので、生徒、保護者共に楽しめ、そのほつま祭の慰労を兼ねた旅行でした。校長先生は、所用で残念ながら出席出来ませんでした。代わりに横山教頭先生

ほつま祭 「2023年 友愛セール」ご協力のお礼

保護者の皆様におかれましては、平素よりやつなみ保護者会へのご理解とご協力を承り、誠にありがとうございます。

本年度は、5月にコロナウィルスが5類に引き下げられたこともあり、約3年ぶりに従来どおりの形で、9月9日・10日の2日間、無事に開催することができました。

今年の友愛セールは昨年と同様、オンラインにて注文を実施させていただき、多くの方からご購入いただくことができました。それに加え、金光ベアの制作・販売にご協力いただいた皆様、HCCサークルの皆様、スタンドグラスサークルの皆様、そして初の試みのキッチンカーにご協力いただいた皆様、多くの方々にご協力いただき、多くの収益をあげることができました。

得られた収益につきましては、子供たちの学園生活を豊かにするため、有効に活用させていただきます。

最後に、本年度の友愛セールにご協力いただきましたすべての皆様に、心より感謝、お礼申し上げます。

金光学園やつなみ保護者会 会長 岡田 祥平

が出席して下さり、やつなみ保護者会役員と友愛セール、模擬店にご協力頂いた保護者の皆様35名が出席したバスは、学園から宇品港へと向かいました。

バスの中では周りの保護者同士、ほつま祭の話や、卒業式の話、子供の進路など時間を忘れてお喋りをして、バスを降りてからは銀河ランチクルーズに宮島散策です。

ランチクルーズは前菜から始まるコースランチで、飲み物はワイン、生ビール、ノンアルコール、日本酒、ソフトドリンクなど飲み放題でした。シェフ自慢のランチを堪能しながら、瀬戸の島々の説明を銀河船員の方から聞いて、遠くに見える紅葉の島々を眺めながらの周りとお喋りはとても楽しく、デザートと食後のコーヒーの後は、デッキに出て青い空に白い雲、絶え間なく広がる瀬戸内海、海風にあたりながら、世界遺産の宮島厳島神社と鳥居をバックに写真を撮るなどしていました。

宮島では自由行動で、厳島神社に行ったり、宮島散策で鹿と戯れたり、買い物

を楽しんだりして、各々楽しい時を過ごしました。帰りのバスでは小谷SAで休憩。最後の買い物を楽しみ学園へと帰って来ました。私達を校長先生が出迎えて下さりました。このような旅行を経験出来て、とても嬉しくい思い出となりました。



会報

令和5年度2学期、やつなみ保護者会の校内での活動は、通常通りで進められていった。うれしい報告として、8月の全国高P連宮城大会で、やつなみ保護者会の活動が評価され優良PTA文部科学大臣表彰を受賞した。

やつなみ保護者会地区会 今年度は、7月に全23地区で地区会を開催できた。全地区それぞれの話題で情報交換ができた。

第3回評議員会・第2回全役員会 8月23日(水)予定通り評議員会・全役員会が開催された。主な議題は、7月に実施した地区会の総括と9月のほつま祭友愛セールの取組などだった。三役さんや部長さんの緻密な計画で打合せが進んだ。

オープンスクール 今年度は7月23日(日)オープンスクールで、三役さんが分担してフリースクールコーナーで相談に応じた。

ほつま祭友愛セール 今年度のほつま祭

Kibi Autumn Adventure



KAAを終えて

1組 和田 悠里

昨日と今日の二日間、国立吉備青少年自然の家で英語を中心に様々なアクティビティをしました。私はもともと英語が得意な方ではなく、「一日中英語なのか」と思うとあまり気が乗らなかつたのですが、二日間を終えて英語は苦手だけど、充分楽しめたなと感じました。

私が一番心に残ったことは、ベルリッツの先生方とコミュニケーションをとったことです。英語が苦手だから、ただ黙っているだけかなと思っていたのですが、ベルリッツの先生が、こつちにおいてと言ってくださり、分からない英語があったら分かりやすく日本語で教えていただき、しっかりとコミュニケーションがとれたからです。

また、岡大の留学生との会話の中で、分からないこともあったけど、いくつかは英語の意味を理解できたり、反応することができたり、簡単な文章を作ったりできて、英語は苦手だけど、英語で外国の方とコミュニケーションがとれているんだと実感できてうれしかったです。

英語に対して私は苦手意識があるし、

好きか嫌いかで答えるなら「嫌い」だけど、外国の方とコミュニケーションをしたり、ゲームなどのアクティビティをすることは楽しいと感じることができました。二日間英語能力が伸びたのかというと、そうではないかもしれないけど、今私ができる限りの英語を精一杯使うことが楽しいと感じたので、二日間できた私の宝です。

KAAで学んだこと

2組 遠藤 仁

自分が先日Kibi Autumn Adventureに行って一泊二日を過ごして、学んだり成長したりと思うことは三つあります。

一つ目は、仲間と一緒に行動する楽しさです。自分たちからしたら、中学校生活初めの宿泊学習でした。行く前日とても楽しみにしていました。そして始まってから終わるまで、ずっと友達と過ごしていく中で、いろいろなことを知ってとても新鮮で面白かったです。しかも仲間との信頼関係もとても増し、来年のオーストラリアに向けてとても重要な二日間になりました。

二つ目は、英語に対する気持ちです。

では、友愛セールで物品と金光ベアの予約販売をオンラインで実施し、全家庭に対して物品や手作り作品の販売を進め、大きな成果を残した。(収支決算については別項参照。)また、サークル活動として、ハンドクラフト・スタンドグラスの2サークルも教室を開き、来場者に喜ばれた。

金光教大祭奉仕 10月1・8・10日の3日間にわたって秋の生神金光大神大祭に評議員さんが奉仕した。また、12月10日に行われた布教功労者報徳祭にも評議員さんが奉仕した。いずれも全国の参拝者の方々の奉仕(接待・消毒など)をして大変感謝された。

研修旅行 11月15日(水)役員同士の親睦と研修を目的に、教養部主催の研修旅行が4年ぶりに行われた。総勢35名が秋の宮島周辺を散策した。

第4回評議員会 11月20日(月)の評議員会は、研修・出張報告の後、各専門部の活動内容の総括と報告、金光教大祭奉仕、教員診断のお願い等について協議した。

諸会合

○8月25日 全国高P連宮城大会。仙台市体育館。岡田会長、植田・恵谷・佐藤

藤・田頭・橋本副会長、小寺監事参加。やつなみ保護者会の活動が評価されて、優良PTA文部科学大臣表彰を受賞した。受賞は、昨年度の全国会長表彰に続き2年連続。

○8月29日 幼こ保小中PTA等指導者研修会。オンライン。植田副会長参加。

○9月15日 中国地区私立中高保護者会会長等懇談会。ホテルニューオータニ鳥取。岡田会長参加。

○10月14日 玉島警察署管内地域安全パトロール出発式。玉島警察署。

○10月28日 県高P連会長研修会。ピュアリティまきび。岡田会長参加。

○11月14日 県私学秋季研修会。ピュアリティまきび。佐藤・田頭・橋本副会長参加。

○11月24日 県高P

【R5年度 友愛セール 会計報告】 (円)

収入	予約販売 (物品)	1,132,000
	当日販売 (物品)	127,000
	予約販売 (ベア)	155,500
	当日販売 (手作り作品)	417,010
	キッチンカーなど移動販売協力金	178,900
	販売売上追加、寄付等*1	247,190
合 計	2,257,600	
支出	手作り作品材料他諸経費	11,240
	予約販売物品購入費	823,710
	合 計	834,950
収支 (収入-支出)	1,422,650	
使途	赤十字事業資金へ*2	20,220
	合 計	20,220
残高	1,402,430	

*1 地区・学年・有志等の寄付を含む
 玉島東・玉島西・黒崎地区 36,000
 福山第四A地区 10,000
 高3保護者模擬店売上 21,190
 ハンドクラフトサークル販売売上 80,000
 スタンドグラスサークル販売売上 100,000

*2 例年寄付をさせていただいている団体

連指導者研修会。ピュアリティまきび。橋本副会長参加。

○11月30日 玉島警察署管内子どもを守る母の会研修会。玉島警察署。西西評議員参加。

○12月12日 県外視察。関西福祉科学大学高等学校。岡田会長、佐藤・田頭副会長参加。

二日間英語をずっと話してきましたが、その場その場で英語を使えないと意味がないと分かりました。留学生と会話をしているときにいきなり質問されて、後々考えたら分かる言葉も分からなくなったりするので、英語は「書く」よりも「話す・聞く」の二つが大事なことがとても分かりました。そして文章を理解することも大切だと思います。一つ一つ単語を和訳していると、ものすごい時間がかかり会話にならないので、文章の成り立ちを何通りか覚えようと思いました。

三つ目は行事の楽しさです。一年、二年と学園の行事をたくさんしてきましたが、この行事はいつもと雰囲気の違い、とても面白いです。そしてその行事の中でたくさん経験や成長ができてとてもよかったです。

最後に、K A Aの初めての泊二日を通して、みんなの関係も深まったし、自分の英語に対しての気持ちも変わったし、いろいろな場面で成長、経験ができてよかったです。次は三年生になり、行事などを引っ張る側になるので、一層頑張りたいのと、来年はオーストラリア研修もあるので、英語の力やコミュニケーション

ン能力など、オーストラリアまでにしなくてはいけないことがたくさんあるので、もっと頑張りたいです。

K A Aで身についたこと

3組 木村 泰喜

僕はK A Aでの留学生やベルリッツの講師の方とコミュニケーションをとりました。みんなとても優しく、積極的に会話をしてくれました。そんな経験をjて感じたことや身についたことが二つあります。

一つ目は、自分たち以外の文化との交流は決して怖いものではないということです。正直なところ、僕は外国の人と会話をするのは不安でした。価値観は合うだろうか、自分の英語は伝わるのだろうか、失礼なことを言ってしまうのではないだろうか、など様々なことがとても心配でした。しかし実際に話してみると、意外と相性も打てたし、留学生の人たちもとてもフランクに話してくれて楽しかったです。暮らしや習慣が違ってても、人間である限り同じ仲間です。性格が似ているかもしれないし、趣味が合うかもしれせん。自分たちと違う立場だからと怖がっ

て避けるのではなく、とりあえず話をしてみても仲良くなるようにコミュニケーションをとることが大事なんだなと感じました。

二つ目は、人と協力することで場の空気が良くなり、絆が深まるということです。このK A Aは外国人とのコミュニケーションをとることと、人との協調性を培うことです。様々なイベント、班の役割分担などを通して、仲間と協力することはできたと思います。今までも学校の行事で団結してきましたが、今回は食事や寝具の準備も共同だったので、各々がより協力する必要がありました。また、一人の責任がみんなの責任になるという、社会でも大切になってくることも学ぶことができました。

行く前は「ちゃんと言っているのか」と心配になっていましたが、終わった今としては外国人と個人的な会話を交わし、仲良くなった貴重で良い経験でした。中には自分と同じ趣味の人もいて、とても嬉しかったです。来年あるオーストラリア研修ではこの経験を踏まえて楽しく、今よりも流暢に話せたいなと思います。

K A Aを通して得た「宝」

4組 石岡 隼弥

僕がこの行事を通して楽しかったことは、留学生と会話をすることです。なぜ留学生と話するのが楽しかったかというと、僕は普段は外国人と会話をすることを避けてきたので、あまり英語で会話をすることが苦手だったけれども、外国の文化やどういったものがあるかどうかを話していくうちにだんだん英語が話せるようになりまし。最後には、体育館でダンスを披露できたのでとても楽しかったです。留学生はいろいろな国の方々がいて、いろいろな国のことを知ることができました。学んだことは、英語が大切だということです。どの授業にしろ英語で説明していたので、英単語や発音を覚えることが大切だと思いました。留学生や先生に質問したりするときに、英語が出なければいけないと思いつつ学んでいたの、かなり覚えることができました。中には難しい単語がよく聞き取れなかった言葉もあったけれども、辞書で調べたり先生に聞いたりして工夫しました。

行く前に教頭先生が言っていた自分の一番の宝物とは「友達」です。この行事

を通して一番楽しかった時間は、友だちと過ごすときでした。友達と一緒にご飯を食べたり暇なときに一緒に話したりすることが一番楽しかったです。

今回が学園に入学して初めての合宿だったので少し心配だったけれど、問題なく過ごすことができて良かったです。この行事を活かして外国の方と積極的に話し、英語の意味がわからないときは先生に聞いたりして頭に入れて、来年のオーストラリアに向けて勉強しなければと思いました。



国際交流活動報告

サマイングリッシュシユビレッジ

7月31日～8月5日まで、初級に30人、中級に11人が参加し、熱心に授業を受け、英語力を高めました。

第6回オーストラリア姉妹校交流 ラッドフォードカレッジ来校

9月19日～25日に、姉妹校であるラッドフォードカレッジから、生徒16名、引率者2名の計18名が来校しました。

19日は、16時30分から歓迎会が行われ、今年の春休みにラッドフォードを訪問した生徒たちとの懐かしの対面あり、音楽部吹奏楽団によるミニコンサートありの楽しい歓迎会が開かれました。

20日は、1～2



限はホストケラスでの授業をそれぞれ体験し、3～4限は調理教室で、手巻寿司や白玉団子を手作りしました。その後、美術や国語の授業を受け、

7限は茶道部協力のもと、お茶室体験を行いました。

21日は、終日広島研修！宮島から平和記念公園と、ホストブラザーやシスターとともに思い出をたくさん作りました。

22日は、書道、英語、数学、音楽などの授業を体験し、放課後に送別会が行われました。

23日は、中学生体育会に参加しました。天気が不安定な中でしたが、100メートル

走やむかで競争、障害物競走や、長縄跳びに出場し、貴重な体験ができました。

24日は日曜日。終日ホストファミリーと過ごし、それぞれが最後の思い出作りを行いました。



京都アメリカ大学コンソーシアム来校

9月29日に、京都アメリカ大学コンソーシアムから21名の大学生が来校しました。

6限に、小体育館で中学3年生と交流会を行いました。中3生が5～6人のグループに分かれ、そこに一人ずつ大学生の方が入り、自己紹介や簡単な話題のおしゃべりの後、「自分の国にはあって、相手の国にはないもの」を挙げてみよう！という異文化理解の取り組みを行いました。大盛りがりの交流会の後は、部活動を体験し、16時30分からホストファミリーも参加しての歓迎会が開かれました。



第11回韓国姉妹校交流 春川女子高校来校

10月24日～28日、姉妹校である春川女子高校から、生徒15名、引率者3名の計18名が来校しました。

24日は、18時から学園での歓迎会が行われ、ホストファミリーと対面し、長旅の疲れも吹き飛びました。

25日は、午前中は英語の授業を体験し、午後は倉敷美観地区の散策に、ホストブラザーやシスターと出かけました。

26日は、終日広島研修です。ホストブラザーやシスターとともに、宮島や平和記念公園を巡り、思い出を作りました。

27日は、音楽、美術、英語、国語の授業を体験したあと、6限のHRで高校1年生と交流しました。

5クラスにそれぞれ15名が3人ずつ分かれて教室に入り、クラスが用意した様々なイベントを楽しみました。

16時30分からは送別会です。音楽部吹奏楽団のコンサートがあり、一人ずつのスピーチありで、涙、涙のお別れになりました。



留学生紹介

《帰国》

ドイツから来校したヤン・ニツケくん、スイスから来校したシヨエル・ウンバクくんが昨年の8月25日〜今年の7月5日までの約一年間の留学期間を終えて帰国しました。

ヤン・ニツケ

私は金光学園ですばらしい交流を体験できました。周りにいるみなさんがたくさんサポートをしてくれたことを、とてもありがたく思っています。クラスメートも本当に歓迎してくれて、いっしょに



楽しいことをたくさんしました。生徒も先生も、ともに、とてもフレンドリーでいてくれることが、私ほとても好きでした。

中でも私は、文化祭の準備が楽しかったです。

1年2組のクラスメートが折り紙で花の折り方など、私にいっぱい教えてくれました。特にお城がきれいでした。1年5組の教室はアニメをあらゆるところに描き、いろいろな人も描けるようなワークショップを開いていて、私ほとても気に入りました。

運動会や球技大会もありました。本当に楽しかったです。クラスメートとチームを作って、他のクラスと競争しました。毎日のどの授業もおもしろかったです。中でもホームルームでは時々ゲームをして、クラスメートは、私がルールを理解できるようにいつも助けてくれました。また、バレーやバスケットボール、



卓球などをおこなえる球技も、私が大好きな科目の一つでした。

金光学園で、素晴らしい一年を過ごせたことにみんなにお礼を言いたいです。ありがとうございました。

シヨエル・ウンバク

金光学園の生徒、先生、そしてスタッフの皆さん、こんにちは！シヨエルです。皆さんがこれを読んでいる

時に、私ほもうスイスに帰っていて、

直接感謝の気持ちを伝えられませんが、このメッセー

ジで伝えさせていただきます。

去年の8月から最後まで、皆さんのおかげですごく楽しかったです。正直に、私の



人生の最高の一年だったと思います。そしてこの一年間はあつという間に過ぎましたが、たくさんさんの大切な思い出がありました。

私は最初すごく緊張していました。挨拶も日本語で十分言えず、ましてや会話することは難しかったです。一人で昼ごはんを食べる時もたくさんありました。それでも、この状況はゆっくり、ゆっく



り変わっていきました。ホームルームクラス、バレーボール部、また囲碁将棋部の色々な人と友達になりました。さらに、音楽部のたくさんさんのメンバーと親しくなり、週末にも一緒に遊ぶようになりました。特に心に残ったのが2月のコンサートに出て、先生のピアノ伴奏でバイオリンを弾いたことと、将棋で県大会に出場したことです。普通では体験できないことをさせていだいたことがすごくありがたかったです。

それだけではありません。文化祭や体育会、そして修学旅行にも参加できたこ

とで、集団を

大切にする

日本の文化が

分かってきま

した。この一

年間にたくさん

の素晴らしい



コダ・シロヴィさん
フラミアニア・ペトロチェリさん
7月の終業式をもって二人ともそれぞれの母国へ帰国しました。



《来校》 中3グローバル交流

小川拳矢くんが中国から来校し、7月7日～26日の20日間を中3-1組で過ごした。



「私は、7月7日から7月26日まで、日本の学生生活を体験したいという思いで、金光学園に聴講生として来ました。

学園の先生方や友達等は、私のことを歓迎し、やさしく接してくれて、そのおかげで学園により早く慣れることができました。学園に入ってから卓球部の同級生数人や、クラスメイトと知り合うことができました。

中国の学校では稀に見る「上履き」などを久しぶりに履き、こちらの方が衛生的だと感じました。その他にも、購買に種類豊富なお昼ごはんや飲み物が売って

いることに、驚きを隠せませんでした。卓球部では、部員の皆さんには及びませんが、基礎と応用が混ざった練習で、自分がみるみる進歩したと感じました。

ご指導くださった先生方、仲良くしてくれたみんな、本当にありがとうございました。また機会があったら、ぜひ金光学園に來たいです。」

ファネーリ・ジーナさんがアメリカから来校し、7月11日に、中3-2組で一日を過ごした。

「こんにちはー私の名前はファネーリ・ジーナです。私はアメリカに生まれて、今はオハイオ州に住んでいます。十四歳で、私は日本とイタリア系アメリカ人のミックスです。私の母は日本人で、私の年の頃、この同じ学校に通ったらしいです。

私の好きなことは寝ること、ピアノをひくこと、あとダンスをすることです。アニメと韓流ドラマを見るのが大好きです。

毎週土曜日、私は日本語補習に通っています。四歳から行っています。だから日本語がしゃべれます。あと漢字も少し書

けます。でも音読とか日本語を読むのは得意ではありません。一日よろしくおねがいします。」

二人の留学生を迎えた中3では、7月11日の5限に、「中3グローバル交流会」と題し、二人の自己紹介を行ったあと、学園生は歓迎の言葉や琴演奏、出し物を行い、最後はジーナさんの伴奏による『花』（滝廉太郎）を全員で合唱した。



中2 広島平和研修

原爆の恐ろしさを知った

1組 青木 悠真

7月15日に平和記念資料館に行きました。入ってすぐに、当時原爆が落とされ、建物が一瞬で崩れていく様子をプロジェクトジョンマッピングで表現されている展示物がありました。見学を進めていくと『助けて』『水をください』『動く気力もない母親の胸にすがる幼児』や『目を開けて、目を開けて』子どもの名前を呼び続ける半狂乱の母親』などの、当時の人々の助けを求める叫びが表現されている絵や、くつきりと人影が焼き付いたコンクリートが展示されていました。それらを見たとき、原爆が落ちた一瞬で人々を消去した情景が見られ、原爆の激しさを目の当たりにしました。そして、私が一番印象に残った物は、原爆によってぼろぼろになってしまった服や小さなパンツ、溶けてさび付いた三輪車、ずっと大切に握り

しめていたベルトなどでした。多くの尊い命を簡単に奪うことの出来る原子爆弾。何ともいえない感情になりました。

平和記念資料館見学後、原爆ドームを見に行きました。真上から原爆を落とされた衝撃により、屋根の部分は鉄骨だけになってしまっていたものの、他の部分は残っていました。爆心地からとても近かったのにも関わらず、今もなお残っている原爆ドームは、あの日広島の人々が助けを求め、川が真っ赤に染まり何も無くなってしまった街のことを後世にも伝え、誰もが笑顔でいられる平和な世界を願っているように思えました。それから、原爆の子の像に千羽鶴をお供えしてきました。たくさんの千羽鶴が飾られています。もう二度と同じことが起こらないように、戦争がこの世の中からなくなることを祈りながら、千羽鶴をお供えしました。



あの日、約14万人の死傷者を出した広島
島の原爆。二度と同じことが繰り返され
てはなりません。被爆者の方々からお話
を聞ける貴重な機会も少なくなってきた
います。これからの平和な世界を担うの
は私達若者です。そのために、まずは原
爆についてより多くのことを知らなくて
はいけないと思います。私は、今まで
広島島の原爆が8月6日に落とされたこと
しか知らず、原爆がどれほどの威力を持
ち、どれほどの人々を長年苦しめてきたの
か何も知りませんでした。本やインターネッ
トで原爆について学びを深めるなか、痛々
しい人々の傷や、何も無くなってしまっ
た町を見たときは目をふさぎたくなりま
した。私はこの平和学習でもう二度と戦
争を繰り返してはならないと改めて感じ
ました。

毎日を大切に生きること

2組 細谷 茉広

私の広島平和研修を通しての感想は、
毎日を大切に生きていくということ。私
は平和記念資料館で原爆のことについ
て詳しく細かく知り、原爆の被害にあっ
た方の写真を見ました。長くは見ていら

れないくらい悲慘な姿でした。悲しかっ
たです。とても悲しかったです。その方
達はちゃんとした人生があったはずなの
に、なんにもしてないのに、たくさん苦
しんだ末に亡くなってしまふのは本当に
悲しかったです。そんな中で私が一番考
えたのは私達と同じくらいの子どもたち、
私達より年齢が低い子どもたちがたくさ
ん被害にあったことです。子どもたちの
遺品が展示されている部屋がありました。
そこには、今では考えられないくらいボ
ロボロになって血がついた服がありました。
壁には遺族の言葉が書いてありまし
た。自分の子供が亡くなったのに骨すら
も帰ってこなかった。しかし帰ってきた
たった一つの遺品がもしかしら違うか
もしれない帽子一つだったという事が書
いてありました。広島島の原爆で亡くなっ
てしまった子どもたちは、わかっている
中で七万人にもなるそうです。その子
達にもちゃんとした人生があったのに原
爆によってこれだけの命がうばわれたの
は信じられないです。

私は広島平和研修を通して世界の人が
「戦争」「原爆」について本当に詳しく知
るべきだと思いました。戦争はやっては

世界の平和を目指して

4組 川原 彩乃

原爆資料館に行つて、原爆の被害にあ
われた人達の絵や写真をたくさん見まし
た。感想を書く対話ノートに感想も書き
ました。平和記念資料館に行つて当時被
爆したものがたくさんあり、このような
ことは二度と起こしてほらないと思い
ました。今、日本は平和でも、ロシアや
ウクライナなどで戦争やどこかで紛争が
起きています。いつかどこの国も争うこ
とのない世界になったらいいなと思いま
した。原爆が落とされたという事実は変
わらないけれど、二度と起こさないため
に自分が知って後世に伝えて行こうと思
います。

今回の先生やクラスメイトと学ん
だことで、自分だけではなく身近な人も
みんな毎日穏やかな気持ちで過ごして
いくのが本当の平和なのではないかと思
いました。人はみんな見た目も考え方も
違います。自分のことをすべての人に理
解してもらうことは不可能です。自分の
ことを理解してもらう前にまずは違いを
受け入れることから始めたいです。

当時は国のためならたとえ死んでもい
いという教育で育つたと分かりました。
今では有り得ないことです。ただ生きる
時代が違っただけの同じ人間です。ただ
それだけの理由で何千万の方々戦争で
犠牲になっていいわけないと思います。
唯一の被爆国である日本が核兵器の恐ろ
しさをたくさんの人にどんどん伝えてい
くべきだと思います。だから日本の若い
人一人ひとりが核兵器の恐ろしさを知る

いけないことだとみんな知っています。
けれど心から言っている人はその中の半
分にも満たないと思います。私も実際そ
うでした。資料館で学んだことで本当に
悲慘だったんだなって思いました。でも
世界には戦争の本当のことを知っている
人は本当に少ないと思います。未来に他
人事ではなくなってくることは0%じゃ
ないと思います。だから私の広島平和研
修で学んだことは毎日を大切に生きるこ
とだと思っています。

本当の平和とは

3組 長坂 創太

僕の曾祖父の両親は原爆で亡くなりま
した。曾祖父は海軍の予科練で知覧にい
て、広島に戻った時に焼野原を見ていま
すが僕が小さいときに亡くなったので直
接話を聞いたことはありません。しかし、
僕のルートでもあるので何度か慰霊祭に
行ったり、平和資料館や平和公園に行っ
たりしたことがあり、それなりに学ん
できたつもりでした。しかし、今回初めて
学校の先生やクラスメイトと一緒に行き、
今までは違う感覚で学ぶことができま
した。平和とはなにか。今の僕にとって

べきだと思っています。だからこの機会で原
爆のことをたくさん知ることができてよ
かったです。広島島の平和記念資料館には
たくさんの方々が訪れていました。だ
から外国にも核兵器の恐ろしさが広まっ
たのではないかと思います。今回平和学
習に行けて良かったです。



高2修学旅行 オーストラリアコース

1日目 1組 能宗 仁

修学旅行初日は移動が主なスケジュールだった。まず岡山空港に向かい、羽田空港へ飛んでバスで成田空港へ行き、そこからオーストラリアのケアンズ空港へ飛んだ。座っていることが多かったため初日は常に腰が痛かった。

岡山空港から羽田空港への飛行機内はかなり揺れた。天候が悪かったらしく雲が多かった。いつも羽田へ行くときは窓から富士山が見られるのだが、残念ながらその日は見ることができず、まもなく羽田空港に着いた。羽田に滞在した時間はわずかで、すぐにバスに乗り成田に向かった。その途中に東京スカイツリーやディズニールンドが見えた。成田空港では自由時間があり、各自空港内の店を回った。僕は書店で昔読んだことのある面白かった本を見つけたのでそれを買った。その後、飛行機に乗り込んだ。しばらくして飛行機が離陸し、少し景色を見たあと機内食を食べ、映画を一本見て寝る

ことにした。明日からの友達との楽しい旅を想像すると胸がいっぱいだった。

2日目 6組 高氏喜太郎

2日目はまずケアンズ空港に到着しビーチを見学しました。ビーチに行ったとき、日本の海のような潮の香りがしませんでした。自分で気になって調べたところ、オーストラリアの海岸で打ち上げられた海藻はすぐに乾燥して分解されないかららしいです。オーストラリアの強い日差しが、そのようなことに関係していることに驚きました。

その後、スカイレールに乗ってキュランダ村を見学しました。スカイレールからの景色は熱帯雨林が広がっていて滝が見えました。ホストファミリーに滝の写真を見せたら、今は冬だから降水量が少ない。12月、1月の夏の間は滝はもっと大きい、と説明してくれました。日本と四季が逆転していることに気付かされました。また、冬でも温暖で暮らしやすい



と思いましたが。キュランダ村で動物園やアボリジニの文化を体験しました。動物園では、カンガルーが野放しになっていて触ることができました。毛が思っていたよりも薄かったです。日本とオーストラリアの気候や文化の違いをたくさん学ぶことができました。

3日目 4組 山下 美羽

まず現地の人々が話している言葉のやり取りを聞いて、文化の違いを感じました。この日はファームステイ先のファミリーと一日を過ごしました。朝の7時に起床し朝ごはんを食べました。9時に家を出てお散歩をしに行きました。そこはオーストラリア特有の熱帯雨林が広がっていました。日本では見た事のない植物を見ながら1時間かけて歩きました。歩き終わると既に昼をむかえそうな時間帯でした。その後ケアンズ市内に行き、外でピクニックをしました。パンに自分の好きな具材を入れたものでした。1時間歩いた後のご飯ということもありとても美味しかったです。食べ終わった後は少し自由時間を貰いました。そこで私は家族や親戚、友達などのお土産を買いました。



日本には無い食べ物やお菓子が沢山並んでいたのでつい色々なものを買いすぎました。

次に絞め殺しの巨樹を見に行きました。長年の年月を経てできた、このようなイチヂク科の巨樹を見るのは初めてで驚きました。その後少し車を走らせ市外の方に行きカモノハシがよく現れるスポット



に行きました。生憎私は見ることが出来ませんでした。ホストファミリーの友は見つけていたそうです。その後家に帰り少し休憩し、ご飯を食べました。ご飯はウインナーや牛肉に野菜とグラタンで少し違い好き嫌いが別れる料理でしたが、私はとても美味しいと感じました。夜食



後にアイス、ゼリー、アップルパイがありました。私はファームステイを通して親の大切な仲間との共同作業を改めて再認識しました。

4日目 4組 田邊光一朗

僕達、男子1班は朝10時にホストファミリー宅を出発し、グラニット・クリーク・コージ・ワラビーズという自然保護公園へ行きました。そこでは、様々な爬虫類と触れ合うことができました。さらにワラビの餌やり体験をさせてもらえました。自分の手で直接餌やりができて、ワラビーによっては手がよだれでべとべとになったりしました。赤ちゃんワラビーもいてとてもかわいかったです。

昼にはとても大きなショッピングモールに連れて行ってもらいました。そこには様々な物が売られていて、ゲームや子供用のおもちゃ、食料品に薬、プロテインも置いてありました。そこで僕たちは日本に持って帰りたいものやお土産、友達と食べるお菓子を買いました。

夕方から夜にはホストファミリーの子どもたちとサッカーやトランポリン、バレー

ボール、ドッジボールなどをして遊んだり、ペットの犬や猫と戯れたり、ロバやダチョウに餌をあげたりしました。とても疲れましたが、日本の家では体験できないことをさせてもらえてとても満足でした。そして晩御飯はバーベキューでした。とてもおいしく、デザートのマシュマロも焼き火で焼いて食べたりしてとても楽しかったです。夜景も日本と違い、ビルなどの高い建物や電灯などの光も少ないのでとても美しかったです。ホストファミリーとの最後の夜は最高の思い出となりました。

5日目 4組 高田 祥希

ファームステイ先の人たちとのお別れから5日目は始まりました。3日間のお世話になった感謝の気持ちとうるさくないのかという寂しい気持ちでいっぱいでした。しかしバスに乗ったあとファームステイ先の人たちは手をふってくれて笑顔で見送ってくれましたから僕もスッキリとした気持ちでアサートン高原を去ることができました。移動中のバスでしっかり寝たあとにグリーン島に行くための船に乗りました。グリーン島についてか

ら昼食にハンバーガーを食べ、シユノーキングを体験しました。

オーストラリアの海はとても浅くサンゴ礁などがありそこには小さな魚もいました。友達と居たのもあって時間を忘れるほど楽しみました。ケアンズ行きの帰りの船は熟睡してしまいました。

ケアンズに帰ってからはお土産をかう自由時間でいろんなところを巡って、様々な点で日本との差を知ることができました。

6日目 6組 高木 洸士

最終日は、ダブルツリーバイヒルトンで目を覚ましました。まず、朝食にバイキングでイングリッシュマフィンを2枚と、ベーコンを2枚、スクランブルエッグを取って席に付きました。そして、イングリッシュマフィンの間にベーコン、スクランブルエッグを入れて食べました。次にトーストを1枚、ベーコンを2枚、目玉焼きを1枚取り、また席に付き、食べました。味付けが無いご飯もたまには良いと思いましたが、そして部屋に戻り、最後の片付けを始めました。オーストラリアを離れる悲しみを噛み締めながら、片付けました。少し時間が経ち、バスでホテルを出発



高2修学旅行 シンガポールコース

1日目 期待に胸を膨らませた日

2組 三宅 翔大

6月11日、まだ肌寒く日も開けていない早朝、男子21名、女子18名、合計39名は、期待に胸を膨らませ、保護者の方々に見送られながらバスに乗り込んだ。

岡山空港を7・10発の飛行機に乗り込み、羽田国際空港に到着。そのまま6時間の長いフライトを得てチャング国際空港に到着した。6時間のフライトは、映画や音楽を楽しむことができ、美味しい昼食も楽しむことができたので、思ったほど長くはなかった。

シンガポールに到着後、入国手続きを行った。人生で初めての入国手続きはとて緊張するものだったが、無事に入国することができた。

その後現地ガイドのジョイさんと合流。驚くほど日本語が堪能で、時々挟むジョークがとても面白かった。合流した後すぐに夕食だった。みんなで食べる中華料理は、日本で食べる中華料理とはまた違った味

で独特なものだった。

夕食をとった後、現地で働くJTBの方から人生のためになるお話を聞かせていただいた。

その後Deホテルに到着。とても豪華で綺麗なホテルだったが、日本と水廻りが少し違っており、少しこれからの旅が



不安になったが、シャワーを浴び、入眠。これからの旅に期待が膨らむ。

2日目 プライ村などの思い出

1組 内田 圭祐

私たちは、シンガポールに到着してからDeホテルで一泊しました。そして、朝の6時30分に起床し、7時30分まで準備した後、朝食をホテルでとりました。ビュッフェスタイルの朝食であったため、自分の好きな量の栄養を摂取できたのが非常に良かったと感じています。

8時45分にホテル発の貸し切りバスに乗り、10時にはマリーオン公園に着き、マリーオン等を見学しました。その後、マリーナベイサンズスカイパークにも行きました。

12時頃にレストランで飲茶セットを食べたあと、マレーシアのジョホールバルへ行くため、約一時間に渡るシンガポール出国審査を経て、マレーシア入国審査を終え、マレーシアにあるプライ村へ行きました。

15時頃にプライ村に着き、プライ村の人々に多目的ホールでコンパンの音楽で迎えられました。そして、村長さんから

の歓迎のスピーチ、金光学園の先生、生徒による代表挨拶などが行われました。さらに、プライ村の疑似結婚式を一部の先生、生徒が体験し、ギフト交換もしました。その後、バスに乗って各グループでホームステイ先へと移動し、順番に降りていきました。

16時頃にホームステイ先につくと、暖かい笑顔で迎えてくださいました。家に着いてすぐ、ドーナツや外が赤いトゲトゲのような皮をしていて、中は白いフルーツと、クッキーのようなものを提供していただきました。その後、チョンカというビー玉を使った有名な伝統ゲームを体験させていただきました。夜になると、子供が楽しそうにおもちゃで遊んでいたのが、少年心を取り戻して、一緒に混ざって遊びました。ただ、一度子供に好かれるとそう簡単には寝させてくれず、かなり遅い時間まで遊んでいました。こうして、シンガポール&マレーシアコースの2日目が無事に終えることができました。

3日目 日本のギャップ

5組 山本 伊織

3日目の朝は、マレーシアのホームス

テイ先で迎えた。日本で言う目玉焼きやビーフン、パンノキの揚げ物などを頂いた。生のパンノキの見た目はヤシのようで固そうだったが、揚げたパンノキは柔らかく、甘みの少ないかぼちゃのようだ。

朝食を頂いたあと、迎えまで少し時間があつたので散歩に出た。想像していたより涼しく過ごしやすかったが、やはり日本の朝とは違った雰囲気で、「これが東南アジアか」と身を持って感じたと同時に少し日本が恋しく思えた。その後ホストマザーにお礼を伝え、シンガポールへ戻った。

シンガポールのホテルでB&Sプログラムでお世話になる現地の学生の方たちと合流し、各班で研修をスタート。まずジョッピングモールのフードコートで昼食を取った。現地の人と同じように列に並び、一人で注文することはとても緊張したが、やはり自分の話す英語を理解してもらえることの嬉しさや達成感があり、自信にも繋がった。

昼食を取ったあとは地下鉄に乗って、2日目にスクールの影響で行けなかったマリーナベイサンズへ向かった。頂上へ上がった途端、目の前に広がるシンガポー





4日目 沢山の出会い

4組 川上 夏果

この日は、セントーサ島に行った。「セントーサ」は日本語で「平和」を意味するとガイドの方が教えてくれた。

島のマリーライオン像は、初日に見たマリーライオンより大きく、てっぺんにアンテナが付いており、なぜ付いているのかわからないと思った。そこから班別に解散し、私たちの班はUSSへ向かい、ジェットコースターに乗った。私の班は、みんな絶叫系が好きで何回も同じジェットコースターに乗ったが、飽きることはなかった。

USSでの思い出は楽しいことだけでなく、新しい交流もあった。それはアトラクションの待ち時間に韓国人と仲良く話しかけたことだ。班の人たちが少しだけ韓国語を話していた時に、相手方から話しかけてくださったことで仲良くなった。お互いの国の言葉を教え合う時間がとても楽しく、あつという間に待ち時間が終わっていた。

その日の夜には、シンガポール動物園のナイトサファリツアーに参加した。ツアー自体は30分ほどだったが、普段の動物園ではありえないほど近く、初めて見



ルの街は、とても壮大で美しかった。その後は買い物をしてから全員と合流し、ホテルへ帰った。

この日はマレーシア、シンガポール両国の食や文化を肌で感じることができ、日本では見つけることのできなかった両国の良さ、そして外国へ行くからこそ見つけることのできる日本の良さを新たに発見することができた有意義な一日だった。

る動物が沢山いた。しかも檻なしの状態です動物たちを見ることが出来、素晴らしい体験ができた。また近くで見た動物たちはとても迫力があり、感動の連続だった。

5日目 帰国

4組 川上 夏果

ナイトサファリから直接チャング国際空港へ向かい、深夜の空港で約3時間過



ごした。日本時間で2時頃だったので、とても眠らなかった。そして、シンガポールの午前1時50分頃ついにチャング国際空港を離陸した。疲れていたのだからという間に寝てしまった。

目が覚めると、もう羽田空港に着いていた。飛行機を降りた瞬間、日本語や見たことのあるお店が見え、日本に帰ってきたんだなと実感した。羽田空港で国内線に乗り換えるときに乗ったバスから見た景色は、シンガポールとは全く異なっており、見慣れたもので安心感があった。空港での自由時間の際に、何か日本食を食べたいと思い、牛丼を食べた。シンガポールで食べた料理もおいしかったが、やはり、日本食が私には合っていて、一番だししみじみと感じた。いつでも食べられていたものが、海外に行くことで食べられなくなったので、改めて日本食のありがたさを実感した。

今回の修学旅行で、食文化や生活の違い、また言語の違いがあっても、シンガポールやマレーシアで出会った人たちは、やさしく接してくれたのでとてもありがたかった。自分が英語でうまく喋ることができなかった時も焦らさず、ゆっくり



と待つて聞いてくれたので、英語が苦手な自分も随分助けられた。たとえ英語が苦手でも、会話を諦めなかったことで外国人と仲良くなることができて、この短い期間でたくさんさんの貴重な体験をすることができた。この修学旅行での貴重な体験を将来へ生かして行きたい。

高2修学旅行 北海道コース

1日目

2組 不動寺優斗

6月12日、私たち高校2年生にとって高校生活一番の思い出作りとなるであろう北海道修学旅行がスタートした。朝早くからの学校への集合にもかかわらず、



みんなの顔には、楽しすぎて待ちきれない」といった表情が浮かんでいた。

まず旅行のスタートは、バスに乗り広島空港へ移動した後、羽田まで飛行機での移動だった。飛行機には初めて乗ったという人が多く、離陸するとき機内はどよめいた。その後、空路で北海道函館空港に到着し、まず一番に向かった場所は五稜郭公園だ。私は公園で散歩のような時間になると想像していたが、着いてみると五角形の星形の公園に五角形のタワーがたつオシャレな場所だった。また、そのタワーから見える景色はとても美しく、五角形の公園とその周りに広がる街並みにみんな見とれていた。その後、私たちは函館奉行所へ行き、歴史にも触れ、五稜郭公園を後にした。

次に向かった場所は、100万ドルの夜景が見える日本屈指の夜景スポット、函館山だ。バスで山頂に向かう途中の2合目で夜景が少し見えたとき、想像より綺麗で山頂ではどんな光景が見れるのだろうか

とみんな期待していたが、山頂はものすごい量の霧に覆われていた。しかし、みんなは日頃見慣れない濃霧の中で、友達や先生と写真を撮ったりして楽しんでいった。これも旅行のよい思い出になるのではないかと思った。

2日目午前

3組 神谷 深

2日目は、函館自主研修から始まった。初日の夜に少しはしゃぎすぎたため、や



や眠そうな目をしたまま、僕たちの班はまず、緑の島という出島の形をした公園に向かった。まわりを海に囲まれ、函館の街を一望することができた。前日の函館山からは景色が全く見えなかったの、美しい景色を見ることができて感動した。公園内には灯台や時計塔のようなものもあり、友人と面白い写真を撮ることができた。

その後、明治時代からの倉庫業の建物を、土産物屋や飲食店・市場に使用している赤レンガ倉庫に向かった。少し暗い印象を受ける建物の中に、アクセサリーや雑貨類などが並べられているのはおしゃれだった。また、班の人数が8人だったため、クレープの注文に思ったより時間がかかり、集合時間に間に合わせるために、バスまで走ることにしたのは、残念だった。無事バスに乗り込み、汗をぬぐいながら、次の目的地ニセコに向かった。

ちと過ごすことで明るく彩られた。バスの中で、ゲームを楽しみながらも誰もが体験へのワクワクを隠し切れなかった。ついにアドベンチャーパークへ到着し、インストラクターの方の説明が始まった。思っていたより難しそうで、不安がよぎってきた。実際始まってみると、不安が一層大きくなるのを感じた。下を見ると広がるのは、緑の草むら。落ちてしまったらと考えると、生命の危機を感じずにはい

れなかった。しかし、私の不安は友人たちの励まし合う声で消えていった。それが、大きな声を出し、励まし合い、助け合っていた。私は、一緒に頑張る仲間存在の偉大さ、最後まであきらめない心の強さを学ぶことができたように思う。終わった後の達成感は、今までに感じたことがないほどで、全力の汗は心地よく、日々の「心の曇り空」はきれいに晴れ渡り青空に変わっていった。

2日目午後

6組 藤代 董

修学旅行2日目、6月13日午後。私たちの楽しいニセコ体験は、バス移動から始まった。目的地までの長い時間は、アドベンチャーパークと一緒に楽しむ友人た



3日目

6組 桑田 亮太

私たちは3日目に植松電気と旭山動物園に行った。植松電気では植松努さんの講演を聞き、ロケットを製作した。講義のタイトルは『思うは招く』で、『どうせ無理』をなくすという熱い語りにとっても感動した。そして、とても勉強になった言葉は、失敗したときにその失敗を責め



るのではなく、その失敗についてどうしてこうなったんだろう？次はこうしたらいいのかな？と考えて失敗の再発を防ぐことが大事だということだ。それを聞いて確かにそうだと共感した。

旭山動物園では、シロクマやペンギン、オオカミなどたくさん動物たちを見た。特に驚いたのは、今まで見た動物園の中で一番動物たちが活発に動いていて、飼育に工夫がされていることだった。

3日目は今後の人生の役に立つ様々な経験をすることができた日だった。これ



らの経験をもとに、今後も様々なことにチャレンジしていきたいと思った。

4日目

3組 佐藤 史織

修学旅行4日目は、札幌・小樽自主研修だ。私たちは電車で小樽駅まで行き、そこからは徒歩で移動した。小樽という町は、活気がありながらレトロな雰囲気を出していた。例えば、駅がレンガ造りだったり、道に今は使われていない鉄道の線路が当たり前のように残されていたりした。地元では見ることができない景色に一瞬で虜になってしまった。

小樽という街に一目で魅了された私たちは、トンボ玉づくり体験に行った。予約をしていなかったため、体験は1時間後となり、少し残念に思いながらも、その間に昼食をとることにした。少し歩いたところに、海鮮丼のお店があったので、そこで昼食をとった。海鮮丼を食べるとは、今回の修学旅行で楽しみにしていたことの一つだったので、とても嬉しかった。会話を楽しみながら昼食をとった後少し時間つぶしてから、トンボ玉づくり体験の店に戻った。店員さんの親切丁寧な説明と手助けのおかげで、初心者

ランプもついていて並ぶことさえ楽しく感じてしまった。また、店内の照明はランプで、机・天井至る所に取り付けられており、幻想的な雰囲気を醸し出しており、この店で飲むココアはとてもおいしかった。今回の研修は、事前の計画通りにはなかったことも多かったが、充実した楽しい一日になった。

5日目

3組 中川 琥心

あつという間の北海道最終日は、えこりん村に行った。エコロジーの「エコ」と輪の「りん」を意味して、SDG'sに取り組んでいる場所だった。えこりん村では、食についてのお話を聞いたり、世界一大きなトマトの木を見たりした。また、牧羊犬と羊のショーも見ることができ、普段できない体験ができた。自由時間にはアイスクリームを食べたり、周辺を散策したり、とても有意義で思い出に残る時間となった。

その後は、最終の目的地新千歳空港へとバスで向かった。バスの中での会話には、「もう少し北海道にいたかった」というみんなの気持ちがあふれ出していた。最後に、空港ではそれぞれ食事をとったり、お土産を買ったりして北海道を十分に堪能し、楽しく過ごすことができた。

とても楽しい5日間の北海道修学旅行だった。北海道の方々をはじめ、この旅行にかかわるすべての人々のおかげで、とても貴重な体験をすることができた。



私を作ったとは思えないほど、きれいなトンボ玉ができた。どこにつけるかを話しながら歩いたことも、良い思い出となった。

疲れが出始めたころ、カフェに入ろうという話になった。見つけたカフェは人気店のようで、行列ができていた。並ぶところはトンネルのようになっており、

ほつま祭

はじめてのほつま祭

中1 4組 岡本 光里

私ははじめてのほつま祭でたくさんの方が心に残りました。小さい頃と小学6年生の時にお客さん側として参加したことがあったけれど、学園生として参加する事は初めてだったので、とてもドキドキしていました。準備の時から、私は友達とたくさんのお話をして、私に友達とたくさんのお話をした時、たくさんの失敗をしながらもとても良いものを作ることができました。お客さんの側として参加したときには、こんなにも準備が大変だと思ってはいませんでした。そして、とうとうほつま祭当日になりました。一日目は案内の係をしました。私は人見知りで、知らない人に話しかけるのにととても緊張しましたが、調べたことをたくさん知ってもらおうと頑張った声をかけました。すると、とても喜んでくれたのでうれしかったです。二日目には



は、私は放送部で演劇のアナウンスをしました。私のアナウンスから演劇が始まると思うととても緊張しましたが無事終えることができました。二日目には小学校の頃の友達や、父、祖母など知っている人がたくさん来たので、4組で調べたことをたくさん伝えられるようがんばりました。はじめてのほつま祭は大成功に終わり、とてもうれしかったです。来年はもっとレベルアップさせたいと思います。



大勢の人で活気あるほつま祭に

中2 2組 黒川 慈貴

昨日、僕の学校でほつま祭があった。初めての通常通りのほつま祭でも楽しかった。

このほつま祭で印象に残ったことが二つある。

一つ目は、一般の人を受け入れるということだ。コロナ禍でのほつま祭では、生徒だけのものであったので、少し静けさがあるような感じだったが、一般の人が入ると、とても活気があるような感じがした。知らない人がいっぱい来たので、接客がとても大変だったが、楽しかった。また、様々な年齢層の人が来たので、うちの学校はいろんな人から愛されているかもしれないと思いつ、気が引き締まった感じがした。

一般の人に接客していた時、とても楽しそうに話してくれたので、楽しいだろうな

と思いつながら接客をしていく自分まで、楽しい気持ちになった。普段話さない人でも、学園祭という地域行事のようなものを通して、地域の人と学生とで触れ合うことは大事だと思った。

二つ目は、ほつま祭までの準備だ。私のクラスは他のクラスに比べて準備が遅れていた、少し焦っていたが、みんなの協力によって準備をすばやく終わらせられた。一人2枚模造紙を書かなければいけないのだが、みんなその模造紙を早く終わらせて、飾り付けの準備をしていた。僕はみんな一人ひとりがほつま祭を成功させるためにやるべきことを知っている、そのことについて取り組む姿勢



を持つていると思った。この体験から僕は、みんな成功させるためには、一人ひとりの努力が大切だと知った。

このほつま祭で僕は、普段通りの大切さと一人ひとりという言葉の大切さを知った。

みんながいたからこそ

中3 4組 安原 真路

今年の4組のほつま祭は、僕が原案を出し、脚本を制作し、監督もして、更には主役もしました。最初は僕にこんな重役が務まるのか、また、ちゃんと劇が成功するのかなど様々な不安がありました。

ですが、僕の周りには4組のみんながいました。

キャストには、完璧にセリフを覚えて



きてもらっただけでなく、「ここはこのように言ってください」や「もつとここはこういう風に言ってください」など僕のおまかせに、それ以上に覚えてもらいました。

大道具・小道具の係は、劇にピッタリな背景を提案してくれ、それを作ってくれたことや、自販機の裏側に本棚を作るなど様々な工夫が施された物を作ってもらいました。照明の係は「ここには、このように照明をあててください」など、僕の要望通りに本番で照らしてくれました。音響の係は、音を事前に収録して、それを完璧なタイミングで流してくれるようにしました。また、4組の全員で分担して、沢山のダンボールやソファなど舞台で使う物も運びました。

このように協力してくれた4組のメンバーでほつま祭の演劇に取り組めたことを嬉しく思い、言葉では伝えきれないほどの感謝が心の中にあります。また、4組以外のたくさんの友達、家族の支えがあつてこそ、このような役ができました。支えてくれた人や応援してくれた人、みんなのおかげで、完璧で最高の劇になりました。本当にありがとうございました。

「やばい、終わらん」

僕はほつまつ祭前日までこんなことを思ったのは初めてだった。突如として発表された「学級閉鎖」は確実に多大な影響を及ぼしていた。そんな事態に陥ってしまったが、僕たちはラストスパートを駆け抜けた。企画倒れになる程ギリギリまで粘ったものもたくさんあった。しかし、クラスの皆で造った作品はとても素晴らしいものであった。一人ひとりが集中し、より良い物を目指した結果、集大成だったように感じている。



「生徒主体」「生徒一丸」を実感できた。僕は文化部にも所属しているため、シフトもたくさんあったが、クラスの



両立も上手い具合にできたし、楽しむことができたので良かった。この二日間を通して感じたことを述べる。

一つ目は「出会い」だ。僕はこれが最も重要なことだと思った。

なぜなら、「人と人が繋がる場」が祭りだと思っからだ。人と人、人と物、新たな発見がたくさんあった。もちろん、今まで中の良かった人とも、より仲を深められたと思う。

そして、二つ目は「協力」。これはどの場面でも重要なことだと感じた。裏で支える一人ひとりが掛け替えのない存在だと思った。

僕は部とクラスのシフトが重なってしまっていた時に、部の後輩が変わってくれたおかげで、とても気持ちよく過ごせた。

このように、ほつまつ祭は楽しいだけでなく、様々なことを学べる機会であった。クラスや部の仲間を大切にしながら、今回培った絆を胸に、これからの学校生活を明るく、楽しいものにしていきたい。

達成感で満たされたほつまつ祭

高2 5組 山本 伊織

今年は今ままで一番楽しく、幸せなほつまつ祭でした。まず、クラスでは演劇「サヨナラは雨の日」をしました。毎日7限があるので他のクラスに比べて時間が限られている上に、私を含め部での発表がある人が多い中での練習はとても大変でしたが、担任

の先生を始めクラスメイト全員が、短い時間の中でも最高の劇にするという目標に向かうことができたお陰で、とても良い雰囲気練習することが



できました。劇の中で私はノアという役を頂きました。ノア役には殺されるシーンがあつて、そこが1番の見せ場でもあり、1番難しくもあり、とても苦戦しました。苦戦している私を見た他の役の子たちがたくさんアドバイスをしてくれたり、励ましてくれたりしたときに5組の温かさを感じました。本番では服を着替える時間が無くボタンを掛け違えて、リボンも着けられないまま出るというハプニングもありましたが、無事に演じ切る事ができたのはクラスメイトのお陰だと思っています。みんな本当にありがとう。劇の後に沢山の方から「本当にすごかった」「鳥肌が立った」と言われてとても嬉しかったし、クラス全員で頑張ってきて良かったと思えました。

部活の発表では、ダンス部としての最後のステージをさせて頂きました。ほつまつ祭の練習期間の数ヶ月は今まで一番苦しかったし、辛かったし、楽しかったです。去年部長になって、ずっとほつまつ祭のステージを最高の物にするために頑張ってきました。部長としての重圧もありましたが、大好きな仲間と後輩のためならと前を向く事ができました。本番前



の円陣で「みんな今までついてきてくれてありがとう！」と叫んだ瞬間、今まで堪えてきた涙が溢れてしまいました。更に後輩が「先輩たちと離れるのがさびしい」と泣いている姿を見て、今まで頑張ってきた良かった、私たちの気持ちが伝わっていたんだなど、とても嬉しい気持ちになりました。

無事に本番も成功し、外に出て写真を



撮る時に後輩たちが花束と色紙をくれてそこでもまたうれしくて、そして離れることが悲しくて泣いてしまいました。この五年間ダンス部で辛いことも多かったけれど、それ以上に素敵な仲間と後輩に出会えることができて幸せを感じていました。来年は出ることはできませんが、大好きな後輩の晴れ舞台を見られることが今からとても楽しみです！

中学 体育会

いろいろな思いがあふれた体育会
1年4組 菅ノ又七海



楽しみにしていた体育会が無事に終りました。前日まで雨が降っていたので、予定通り開催されるかどうか心配していましたが、当日は天気にも恵まれて本当に良かったです。私が出場した400メートルリレーでは、第3走者として走りきりました。部活でも走り込みをしてきたので、このリレーは絶対負けたくないという一杯頑張ったけど、途中でバトン落としてしまい、今でもとても悔しいです。長縄と綱引きは全員参加の競技でした。できる人、できない人



も一緒にやることの難しさを感じました。しかし、お互いを思いやって1つのことを頑張る楽しさも感じる事ができました。小学校までの運動会と違って、生徒が中心になって練習することにも驚きました。先輩たちが1年生を引っ張ってくれてとても頼もしかったです。来年、私もそんなふうな1年生をサポートしていきたいです。そして、今年よりパワーアップした体育会にしていけるようにがんばります。

チームワークと切り替える力

2年3組 竹井 佑

私は今年の体育会で、「チームワーク」「切り替える力」そして「臨む姿勢」を学びました。

体育会まで

の練習期間、私達二年三組は長縄をたくさん飛ばうと練習してきました。ですが、最初の頃は他の組と同じく



らしいか飛ばせませんでした。なぜなら、縄が引かかったときに、引かかった人を見つめようとしたからです。「犯人探しせず、切り替えて飛ばう」と誰かが言ってくれ、また飛んだ回数もみんな数えていくことで、私は練習で他の組よりもたくさん飛ばうことができました。そして本番でも力を発揮し、チームに貢献することができました。私達の「チームワー

ク」と「切り替える力」が、この結果を生んだのです。

私は二年連続で、「男子400mリレー」に出場することができ、また走る順番も去年と同じ第一走になりました。競技に出ると決まっていたので、最初の頃は、「去年も同じように走ったし、練習しなくていいや。」と思っていましたが、他のクラスの第一走者が速い人達ばかりだったため、さすがにまずいと思い、体育会までの間に短距離を走っていました。その成果もあつたのか、私は二番手に入り、アンカーが追い抜き、一位になることができました。もし、朝に走っていないと、走力が落ちていて、他の組に負けていたかもしれません。物事に対する「姿勢」が、どれほど大切か実感しました。

この体育会で学んだことを、来年のこの時期までに身につけて、そこから更に先輩や友達への思いやり、臨機応変な対応を身につけて、中学校最後の体育会に臨みたいと思いました。

先輩を導く立場へ

2年4組 黒川 遼介

私が体育会を終えて心に残ったことは、

皆が最後まで頑張っていたことです。なぜなら、誰一人としてやる気がなさそうにしていない人がいなかったからです。結果的には四組は最下位でしたが、適当に負けるよりは本気で頑張った方がとても良い体育会にすることができたと感じますし、そして何より皆が協力して楽しい体育会にしようという意識が素晴らしいと感じました。

私がこの体育会で学んだことは、立場を弁えるということです。昨年の体育会は二三年生についていくだけでしたが、今年は昨年より審判や招集などの係が振り分けられたこともあったけれど、何より一年生をまとめる手伝いなどが増えたと思います。

しかし、来年は私たちが中心となって、一・二年生を率いていかなければなりません。今年のための



勉強をさせてもらえる会になったと思います。

そして私は、この体育会を終えるまでは、正直どうなるか分からなかったです。しかし、

三年生をはじめ、幹部の皆さんの力によって練習から本番まできっちり臨むことができました。時には楽しくワイワイ、時には本気で、メリハリのある体育会に仕上げられたと思います。そして何より、幹部の皆さんたちには感謝しかないと思っています。来年校は感謝されるような三年生になりたいです。

最後に私は、この体育会で経験したこと、得た知識を次の行事や来年の体育会に活かしていきたいです。この体育会は本当に一年に一度きりしかないと、思います。だからこそ、私はこの体躯会を無駄にしないと思います。



中学最後の体育会

3年1組 磯崎 唯愛

中学校最後の体育会。私は沢山の思い出があります。1つ目は、チアリーダーをさせて頂いたことです。クラス投票で私の気持ちをみんなにしっかり伝えられるかどうか、私なんかにはチアリーダーが務められるのかほんとうに心配でした。しかし、クラスみんなは私を選んでくれてとにかく嬉しかったです。先生からチアリーダーになるんだから校則を守り守って下級生のお手本になりなさいと言われ、守っていかなければならぬなとつくづく思いました。

そして体育会の練習が始まり、みんなにダンスや隊形などしっかり教えることが出来るか不安でした。やること全てが初めてで、何やらやればよい



の分からなかったです。ですが、団長や副団長や副チアが私の支えになって一緒に考えてくれました。ほんとにこの3人が幹部で良かったです。中3のみんなもダンスをしつかり覚えてきてくれたり、分らないところがあれば私に聞いたり、ほんとうにみんなの本気が伝わってきました。いよいよ中1、中2に教える日が来ました。皆が話を聞いてくれるかとても心配でした。ですが、ダンスが出来なくてもしつかりやるうとする姿勢が見られてとにかく嬉しかったです。2週間という練習期間があつという間に過ぎ、本番が来てしまいました。本番前のリハサルでは隊形が少し汚かったり、声が小さかったりして少し心配でした。ですが、本番では皆本気で取り組んでくれて、とても最高の応援合戦でした。どの兄弟学級もとてもいいものが作れていて感動しました。応援合戦では2位という成績をおさめ、ほんとうに嬉しかったです。本気で取り組んできたので泣きそうでした。そして閉会式も終わりました。ミーティングでは嬉し泣きしてしまいました。初めの頃はほんとうに自分出来るのか、皆私に着いてきてくれるのかとにかく心



配で心配でしかたなかったのに、最後にはいいものを作れてほんとうに良かったです。最高の思い出の体育会になりました。これらの経験を今後の学園生活に活かして行きたいです。

最高の体育会

3年2組 佐藤 地央

今回の体育会は、私の今までの中学校生活の中で間違いなく一番の思い出になった。1年生、2年生の体育会は多くの制限の中実施され、規模を縮小し、競技もいくらか少なかった。そういう意味では、3回目で私達は初めて「本物の体育会」を経験した。

私は、応援合戦が1番印象に残っている。それは本番だけでなく、2週間の練習期間も含めてだ。1年生や2年生とはほとんど交流がなく、最初はうまく接していか分からなかったが、団長やチアなどが率先して指揮を取り、兄弟学級をまとめた。難しいダンスもあったのに、嫌な顔をせずに取り組んでくれた1年生と2年生にはとても感謝している。それと同時に、去年「ダンスめんどうくさい」と少しでも思っていたことを今の高1の

先輩に申し訳なかったなと感じた。

応援合戦の本番はみんなよく頑張っていた良かったと思う。審査員による点数・順位はついてしまったけれど、そんなことはどうでもいいと思える

くらいに私は2組の応援が1番好きだ(異論は受け付けない)。ダンスの振付や隊形移動を一から考え、的確な指示を出し、応援合戦をより良いものにしてしようと思つて頑張った。3年生、特に団長・チア・副団長・副チアは本当にすごいと思う。私は「静かに!!!」とか「座れ!!!」と叫ぶことしかできなかったし、もしかしたら下級生には嫌われてしまったかもしれないけれど、本当に楽しかった。

また、競技でも兄弟学級同士で応援し合えたし、4×100mリレーでは大会新記



録で優勝できて最高の思い出になった。ビデオに2組のテントの様子が写っており、みんな盛り上がりすぎて応援してくれていたようで嬉しかった。

最後の体育会を3年2組の仲間と駆け抜けることができて嬉しく思う。この兄弟学級、3年2組で本当に良かった。中学校生活はほとんど残り少なくなっていくが、この仲間たちとより良いクラス・学年にしていきたい。

3組でよかった

3年3組 山本 佳奈

私は、中学生生活最後の体育会でみんなを引っ張っていきける存在になりたい、3組の子に3組でよかったと思ってもらいたいという想いから、チアリーダーに立候補しました。クラスメイトからの応援もあり、無事チアになることが出来ました。最初の頃はみんなを引っ張っていきたいという思いはありましたが、経験がない私は、何をどうすればいいのか全く分かりませんでした。また9日間という短い練習期間だけで、8分の作品をつくれるのか、とても不安でした。しかし、3組の幹部は話し合いを重ね、いろいろ

なアイディアを出し合い、少しずつ8分間の作品が頭の中で形になってきました。そしてあつという間にほつま祭が終わわり、全体練習が始まりました。1日目は、頭の中では形になっていても、教えない



ことが伝わらなかつたり、計画通りに進まなかつたりしました。その日の放課後からは、明日からに繋げられるように、これからどうしていくべきか幹部でしっかりと話し合いました。時間配分も何を具体的ににするかも、しっかりと考えました。そのおかげもあり、2日目から少しずつではありますが、みんなをまとめられているような気がしました。3組のみんなはほんとうに全員いい子で言ったことは全部やってくれるし、ほんとうに助けられました。みんなが全力で応えてくれたおかげで、競技でも応援合戦でも1位を

とることができました。この1位は、頼りがいがあり、たくさんアイディアを出してくれた3組の幹部、お互いにプレッシャーで押し潰されそうだったけれど、励ましあった他クラスのチア、足りてない部分ばかりで、口を出したかっと思っと思うけれど、見守ってくれた兄弟学級の先生方、こんな私についてきてくれた3組のみんな。ほんとにみんなのおかげでとれた1位です。チアに立候補した理由でもある、3組の子に3組でよかったと思ってもらいたいという願いが少しでも1人1人の心の中にあつたら幸せです。

中学最後の体育会

3年4組 浅野 優斗

僕は、体育会でたくさんの方を学びました。まず、体育会で学んだことのひとつとして挙げるのは、協力とチームワークの重要性です。スポーツは個人の力だけでは勝つことができず、チーム全体が連携し、協力しなければなりません。試合や練習の中で、仲間との信頼関係を築くことがとても重要であることを学びました。これは学校生活においても、人間関係においても非常に重要なもので

あると思います。だから、体育会で学んだチームプレイを今後の学校生活に活かしていきたいと思っています。

また、今回の体育会では、努力と忍耐の大切さも学びました。体育会の中であつたダンスは簡単に上達するものではなく、練習と努力が必要でした。練習と努力をすることで、向上心を保つことができると思います。この精神は、学業や人生においてもとても役立ち、目標達成に向けて努力を惜しまないことの大切さを学びました。

体育会を通して、スポーツに限らず、学校生活に活かせるような重要な経験を学びました。協力、努力、忍耐への意識は、僕の学校生活の中で常に役立ち、成長に向けての目標になると思います。体育会は僕にとって、とても貴重な経験であり、これからの貴重な経験を活かしながら、大切に、学校生活を過ごしていきたいと思っています。





サマースクール2023スケジュール (都合により、予告なしに変更する場合があります。ご了承ください。)

月	日/曜日	午前 (過去問講座 他予定)	午後 (イベント予定)
7月	24/月	8:30~ 「学サマ開校セレモニー」※家族参加可 9:30~ 「夏休み学習計画づくり」「自主学習」	13:30~ 校内オリエンタリング 15:30~ ゲーム大会「みんな友達！」
	25/火	学習(1)(2)(3)過去問講座・実力アップ講座(算数①)	宿題対策「読書感想文読み聞かせ」「工作何でも相談①」
	26/水	学習(1)(2)(3)過去問講座・実力アップ講座(国語①) シヨーン先生と英語で遊ぼう①(3・4年生対象)	宿題対策「作文が得意になる読書感想文講座①」「工作何でも相談②」
	27/木	学習(1)(2)(3)過去問講座・実力アップ講座(算数②)	宿題対策「作文が得意になる読書感想文講座②」 15:30~ 学サマコンサート①「金光学園音楽部コーラスと一緒に歌おう！」
	28/金	9:00~16:00 学サマバス研修(参加費1500円+昼食代) ※学校から貸切バスで行きます。 【午前】倉敷自然史博物館研修(学芸員によるバックヤードの説明と見学) 【午後】ヘルスピーア倉敷にて、「ホルダリング」又は「アイススケート体験(インストラクター付き)」は各自選択 ※不参加の方は、校内で別メニューで過ごします。	
29/土	学習(1)(2)(3)自由学習・自由研究等	13:30~ 「皆さんにぜひ見てほしいスタッフ厳選映画鑑賞会①」	
30/日	休み		
31/月	学習(1)(2)(3)過去問講座・実力アップ講座(国語②) シヨーン先生と英語で遊ぼう②(3・4年生対象)	楽しい!美味しい!クッキーづくり教室(参加費400円) 	
8月	1/火	(B)コース参加者対象オリエンテーション 学習(1)(2)(3)過去問講座・実力アップ講座(算数③) 9:00~12:00 あつまれ金光学園へ(陸上競技部)	夏まつり実行委員会発足(以後随時開催) 仲間と一緒に、自分たちの夏祭りを創ります! 「工作何でも相談③」
	2/水	学習(1)(2)(3)過去問講座・実力アップ講座(国語③) シヨーン先生と英語で遊ぼう③(3・4年生対象)	宿題対策「きつと絵が好きな絵画・ポスター教室」
	3/木	学習(1)(2)(3)過去問講座・実力アップ講座(算数④) 9:00~12:00 あつまれ金光学園へ(未定)	13:30~ 編みぐるみ作家の光恵さんによるお話とワークショップ 「オランと学ぼう!編み物とおして地球のこれらを学びます」 (参加費200円) ※家族参加可
	4/金	学習(1)(2)(3)過去問講座・実力アップ講座(国語④) 9:00~12:00 あつまれ金光学園へ(吹奏楽団)	「モノづくりの楽しみ」 様々な材料を使ったモノづくりを楽しみます。
	5/土	学習(1)(2)(3)自由学習・自由研究等	「ニューススポーツ大会」※家族・友達参加可 ニューススポーツとはどんなスポーツ?それはヒ・ミ・ツ
	6/日	休み	
	7/月	学習(1)(2)(3)過去問講座・実力アップ講座(算数⑤) 9:00~12:00 あつまれ!金光学園へ(中学女子バスケ部)	13:30~ 遠藤アナウンサーによる「コミュニケーションワークショップ」& 学サマコンサート②「朗読とチェロ、バイオリン、ピアノによる音楽物語 “セロ弾きのゴーシュ”」※家族参加可
	8/火	学習(1)(2)(3)過去問講座・実力アップ講座(国語⑤)	宿題対策「書写教室」 キャンプ実行委員会発足(以後随時開催) 仲間と一緒にキャンプを企画・運営してみよう
	9/水	学習(1)(2)(3)過去問講座・実力アップ講座(算数⑥)	国際交流「世界の仲間と遊ぼう!」 (岡大留学生、学園留学生、学園国際交流クラブ生徒と交流)
	10/木	学習(1)(2)(3)過去問講座・実力アップ講座(国語⑥)	夏まつり・キャンプ準備 15:30~ 学サマコンサート③「日頃聴くことがない、津軽三味線と篠笛の奏材で 力強い日本の音楽に触れてみよう!」※家族参加可
	11/金	休み(山の日)	
12/土	学習(1)(2) 11:00~準備 15:00~19:00 「夏だ!まつりだ!みんな集まれ!」《ゲームコーナー》《イベントタイム》※家族、友人参加可 学サマコンサート④「土曜講座発表」お笋の美しい音色」「金光学園音楽部吹奏楽団演奏」 「松山学(B.Acc) & 中村尚美(W.Bs)ジャズコンサート」他 		
13/日	休み		
14/月	休み		
15/火	休み		
16/水	学習(1)(2) 11:00~ (ただいま、楽しいこと考え中)	キャンプ打合せ・用具準備等 	
17/木	キャンプ 日 時/17日9:00~18日15:00 場 所/遠原山藤波キャンプ場 ※学校からバスで往復します。		
18/金	参加費/4500円(バス代、施設設備使用料、食費、他) ※ボーイスカウト指導者の指導の下に実施いたします。詳細は後日連絡。 ※不参加の方は、校内で別メニューで過ごします。		
19/土	学習(1)(2)(3)自由学習・自由研究等	13:30~ 「皆さんにぜひ見てほしいスタッフ厳選映画鑑賞会②」	
20/日	休み		
21/月	学習(1)(2)(3)宿題総点検日	仲間との絆ゲーム大会 学サマの仲間との絆を深める、楽しい時間を過ごしましょう! 15:00 「学サマ修了証授与式」「お別れの会」※家族参加可 17:00 片付け掃除 17:30 解散 	
22/火	サマースクールを振り返ってみましょう。キミはこの学サマで何を体験し、何を考え、どのように成長した?		



金光学園わかばプロジェクト主催 「学童サマースクール2023」開催

「地域教育に貢献すると同時に、金光学園の良さを広く知っていただく」を目的に設立された「金光学園わかばプロジェクト」が、今年度も、4月から7月にかけて「土曜チャレンジ講座2023」と「学童サマースクール2023」を実施した。

今年のサマースクールは、7月24日から8月22日の日曜日、祝日、お盆を除く23日間実施。参加児童は、東は備前から西は尾道までの、小学3年生9名、4年生26名、5年生36名、6年生30名の計101名が参加した。定員65名で募集したが、募集初日の午前中に定員に達し、急遽定員枠を拡げるほどの人気であった。参加した児童たちは、午前中は学習を中心に、午後は様々なイベントに参加して、大変充実した、特別なサマースクールを過ごした。主な内容は次の通り。

《学習面》

- 自主学習では夏休みの宿題を中心に取り組む
- 6年生「入試過去問講座」5年生「実力アップ講座」算数と国語を金光学園教師が指導
- 3・4年生「シヨーン先生と英語で遊ぼう」
- ネット学習等々。学習指導には、教師、学生、生徒がアドバイザーで付きます。

《講座》

- クッキーづくり教室 ● あみぐるみ作家によるお話とワークショップ ● モノづくりの楽しみ
- 遠藤アナウンサーによる「コミュニケーションワークショップ」
- 「読書感想文講座」「絵画・ポスター教室」



講座・イベントの参加者評価

5(とても良い)	4(良い)	3(少し物足りない)	2(良くない)	1(不参加)
講座・イベント等				
過去問講座(6年生対象)	18	6	1	1
実力アップ講座(5年生対象)	21	6		
ゲーム大会	34	15	7	1
読書感想文講座	48	12		2
工作何でも相談	14	9	1	
シヨーン先生と英語で遊ぼう(3・4年生対象)	25	4		
コンサート①コーラス部と一緒に歌おう	39	2	1	
倉敷バス研修	53	2		
ニューススポーツ大会	15	3		
クッキー作り	49	1		
絵画・ポスター教室	42	7	4	
あみぐるみ作家藤田さんのお話とワークショップ	28	8	3	
ものづくりの楽しみ	43	12		1
映画鑑賞会①	11	7	1	
遠藤アナコミュケーションワークショップ	38	10		
コンサート②音楽物語「セロ弾きのゴーシュ」	38	6		1
特別書写教室	11	2		
国際交流	40	11	4	1
コンサート③津軽三味線と篠笛	40	7	1	
夏祭り	50	8	1	
コンサート④吹奏楽・お笋・ジャズ	40	6	1	
キャンプ	40	6	3	
映画鑑賞②	14	3		
絆ゲーム大会	39	6	2	

《イベント》

- ゲーム大会 ● バス研修(倉敷自然史博物館、スケート、ボルダリング)
- スタッフ厳選映画鑑賞 ● 夏祭り(児童企画運営)
- ニューススポーツ大会 ● 岡大留学生を迎えて国際交流 ● キャンプ(1泊2日) ● 開校式、修了証授与式、お別れの会

《コンサート》

- 音楽部コーラスと一緒に歌おう ● 朗読、チェロ、ヴァイオリン、ピアノによる「セロ弾きのゴーシュ」 ● 津軽三味線と篠笛による「和の響き」 ● 土曜講座生と先生(山路みほ先生)によるお笋の演奏 ● ボタンアコーディオンとベースによるジャズコンサート

ある日のホームルーム



高1進路学習



仕事の流儀

「あなたたちの未来はすべてがきらり」
様々な業種で活躍されている職業人の方23名をお招きし、9月26日(火)の5〜7時間目に、高校1年生による進路学習が行われました。

獣医、公務員、銀行員、運輸業、鉄鋼業、テレビ・新聞といったマスコミ、会計・税理士、弁護士、薬剤師・医師、地下足袋産業、自動車販売、薬品メーカー、介護福祉、建設業で活躍されていた。



る18職種の方々から、生徒は自分の興味関心が高い業種に携わる4職種の方のお話を聞きました。

講義のあとは、質疑応答の時間も設けられ、やりがいや苦労する点などをお聞きしたり、高校生活でどのようなことを大切にしながら頑張っていたのかを教えてくださいたいとして、これからの文理選択に向けて大いに刺激となりました。
以下、生徒の感想を紹介します。



「他人に言われたことはあくまで参考」

「他人に言われたことはあくまで参考」という言葉が心に残りました。周りの人の言葉を鵜呑みにするのではなく、あくまでも参考として話を聞いて、自分のしたいことがあればそれをすればいいというお話がありました。

また、「誰のために何をするのかということを考える」という言葉も心に残りました。自分の将来を考える上で、自分誰のために何をしたいのかを明確に描けるようにしたいと思います。

「将来から逆算する」



自分は文理選択に悩んでいないが、もし悩んでいたら将来の夢から逆算して考えることが大切と教わったので、文理選択以外にも将来のことで悩みが出てきたら、将来の夢から逆算して、

今何をしたらその仕事につくことができるとかを考えたいと思う。今日の話を聞いて、自分の好きなことが出来る職業が一番良いということがわかったので、いろいろなことを調べて将来のことを考えたい。

「人生について考えさせられる」

人生について考えさせられる話だった。すべてが上手く行かないときでも決して人のせいにはせず、諦めず様々な工夫をしたことがとても素晴らしいと感じた。福祉では人助けの大切さやどのような信念があるか向いているのかを教えてください、福祉への理解が深められる講座で面白かった。



「人を見て介護する」

この講演では、薬品メーカーと介護士の方からお話を聞きました。薬品メーカーの方の話で、廃棄されるネギを箸に変えるという取り組みを聞いてすごいと思いました。薬品メーカーでは、毒薬なども取り扱っていると知りました。介護士の方のお話で、今ではただ介護をするだけではなくて、人を見て介護をするという事が加わっていると知りました。たくさん大変なこともあるけど、やりがいを感じられる素晴らしい仕事だと思いました。

「自分の意思で将来が変わる」

私は今回の仕事の流儀を聞いて、自分の将来が文理選択によって変わるより、自分の意思の変化で将来が変わる事のほうが多いことがわかりました。自分は理系に行つて、生物学や水産系のことについて学びたいと思っていましたが、数学の成績が悪く、国語や古文を頑張つて、文系に行こうかと悩んでいました。しかし、今回来てくださった方々の話を聞いて、やっぱり数学を克服して、自分の行きたい理系に行こうと思えました。

「集中力の深み」

普段の生活の中で目にする仕事や物の裏側には多くの人の頑張りや苦労があること、その大変さを理解していたつもりでいたが、実際の仕事内容を聞くと、今までの考えが一気に変わった。その仕事に就くまで、また就いてからの悩み・工夫・頑張りには自分の想像を超えるものだった。長時間に及んで大変な仕事を正確に、丁寧に行うことのできる「集中力」に深く尊敬の念を抱いた。今回の進路学習で学んだ「集中力」は自分にとって欠けているもので、それは短所であると感じている。この学習内容を活かし、将来の目標に向かって「集中」してやるべきことをこなしたいける、そんな人間になりたいと感じた。



生徒会活動

《中学生徒会》 ほつま祭は、「笑顔満祭」咲き誇れ金光魂」を統一テーマに、9月9日（土）～10日（日）に行われた。クラスや部の展示・演技はコンテスト形式ではなかったものの、コロナ前と同様に入場制限等のない形で実施できた。新たな試みとして、「学園マルシェ」と銘打ったキッチンカーや麦ばたけ、セブンイレブンの出店などもあり、在校生だけでなく、保護者やオープンスクール参加者にも好評であった。高校3年生の有志による模擬店は、射的や輪投げなどを中心に大いに楽しめるものとなった。

7月26日に浅口支部生徒会交流会が金光中学校で行われた。今年度は、各校の自己紹介をし、各校の生徒会活動について発表するなどして交流を深めた。

体育会は前日の雨でグラウンドの状態が心配されたが、無事開催することができた。ほつま祭以後、2週間程度の取り

組みの中、3年生を中心に兄弟学級が団結した素晴らしい応援合戦を展開した。また中3によるうらじゃでは、迫力のある和太鼓、コーラスやダンスなど、多様なパフォーマンスで観客を魅了した。学年の部第1位は1年2組、2年3組、3年1組、兄弟学級の部第1位は3組、応援の部第1位は3組であった。

「リレークリーン作戦」も1学期より行っている。「日頃お世話になっている町内やJR金光駅等に対し、お礼（感謝）の気持ちを清掃という形で表す」「登下校のマナーについて考える機会とし、学園の仲間が清掃をすることによってゴミをしない、迷惑をかけないという意識を各々に育てる」が目的で、クラス、生徒会事務局がチームを作り、金光駅から学園までの主に通学路を中心に清掃活動している。

《高校生徒会》 体育会は9月13日（水）に、残暑厳しい中ではあったが、給水タイムを設けたり、閉会式はテント下で行ったりと、健康面にも配慮しながら実施した。また種目も、コロナ前の2019年の体育会をベースに、競技数を少し減らして、余裕を持って実施できるようにした。橙

ブロック（3年3・5・6組）が優勝、赤ブロック（3年1・2・4組）と紫ブロック（1年1・2・3組）が同点で第2位となった。

高1・2秋季球技大会は、10月20日（金）に実施した。時折雨が降るあいにくの天気であったが、奇跡的に実施できた。1年は1組と2組が同点で総合優勝、2年は3組が総合優勝、4組が第2位であった。

《天文部》 ほつま祭では、コロナ禍で中止となっていたプラネタリウムを再開することができ、来場者の方々に楽しんで頂くことができた。

《科学部》 ほつま祭で、サイエンスショーを披露したり、お客様に実験を体験してもらったりして日頃の活動の成果を発揮することができた。11月には鴨方ビッグハットにて「科学であそぼう」に参加をした。

《電気科学部》 7月29日 岡山情報ビジネス学院でWRO JAPAN 2023中国地区予選会があり、ジュニア・ミドル部門に2台、エキスパート部門に1台、シニア・ミドル部門に1台出場。ジュニア・ミドル部門で、大胡・坂本が1位を取り、全国大会へ。8月26日東京でおこなわれた

WRO Japan 2023 In Tokyo に出場。健闘しました。8月27日に里庄中学校でおこなわれた仁科ロボコンに、中学生が2チーム出場、がんばりました。

《生物部》 8月2日(水)、3日(木)に津黒高原津黒いきものふれあいの里にて、2023年度生物部合宿を行い、14名の部員が参加した。初日は、津黒いきものふれあいの里の学芸員の先生の指導で里山フィールドワーク、川での生物採集を行い、県南では見られない生き物の観察を行った。二日目は、ほつま祭の準備として生物部の活動を振り返り、模造紙を使用して掲示物の作成を行った。午後からは、湯原温泉郷オオサンショウウオ保護センターにて見学後に帰路について、コロナ禍が明けて初めての合宿であり、どの生徒も興味のあるそれぞれの分野で目を輝かせて観察をしていた。

《書道部》 「高野山競書大会」において、高3寺川なのが推薦、高2大塚萌衣が特選、高3片山杏悠が準特選、高1小寺穂果と中3山田桃実が金賞、中2長谷川向夏花と中3石井遙菜が銀賞、中3中村菜々と木之瀬由奈が銅賞を受賞した。「第52回全国高校書道展」において、高3寺

川なのはが準特選に、高3片山杏悠が入選を受賞した。「第47回ふれあい書道展」において、中3山田桃実が筆都大賞を、高3寺川なのは、中3石井遙菜、中村菜々、寺川理斗、中1石井結菜が特選を受賞した。《茶道部》 ほつま祭では限定20席でお茶席を設けた。生徒は緊張しながらも、お点前、亭主、お運びとそれぞれが日ごろの練習の成果を発揮した。また、10月29日に土佐家旅館で行われた「なんでも市場」では、抹茶だけでなく、抹茶ラテ作りも行った。京都アメリカ大学コンソーシアム、春川女子高校、マリーキュリー高校の留学生が来校した際には、茶道体験を通して国際交流をすることができた。

《音楽部吹奏楽団》 新体制となり、6月2日(金)ほつま体育館での芸術鑑賞会では、ジャズのスペシャルバンドの皆さんと「オーメンズ・オブ・ラブ」「ザ・チキン」をセッション演奏。6月4日(日)岡山シンフォニーホールにて第67回吹奏楽祭に参加。「20世紀フォックスファンファール」「オーメンズ・オブ・ラブ」「プロローグ・マジエスティア」を演奏。7月初旬は、高校野球の応援演奏に参加。7月8日(土)音楽部吹奏楽団保護者会

ンポリミッキー」を演奏し、ほつま体育館に会場されたいっばいのお客様と一体となって盛り上がった。9月19日(火)120大講義室で行われたラッドフォードカレッジ歓迎会にて、ミニコンサートを行った。「20世紀フォックスファンファール」「オーメンズ・オブ・ラブ」「名探偵コナンメイナイトマ」「新時代」「アイドル」を演奏した。9月23日(土) 中学体育会の開閉会式では中学生部員のみで「海兵隊」「金光学園歌」「得賞歌」を演奏した。9月29日(金) 春川女子高校との交流パーティーにて、ミニコンサートを行った。「20世紀フォックスファンファール」「オーメンズ・オブ・ラブ」「名探偵コナンメイナイトマ」「新時代」「アイドル」を演奏した。9月23日(土) 中学体育会の開閉会式では中学生部員のみで「海兵隊」「金光学園歌」「得賞歌」を演奏した。9月29日(金) 春川女子高校との交流パーティーにて、ミニコンサートを行った。

「20世紀フォックスファンファール」「オーメンズ・オブ・ラブ」「名探偵コナンメイナイトマ」「新時代」「アイドル」を演奏した。10月23日(月) 金光竹小学校に訪問し、音楽鑑賞会を行った。「20世紀フォックスファンファール」「オーメンズ・オブ・ラブ」「プロローグ・マジエスティア」「名探偵コナンメイナイトマ」「新時代」「アイドル」「ジャンポリミッキー」「宝島」を演奏。「運命」「海兵隊」を使つての指揮者体験、最後は「竹小学校校歌」を演奏、会場の全員で斉唱し大いに盛り上がった。10月27日(金) 120大講義室で行われ

た春川女子高等学校送別式にてミニコンサート。「20世紀フォックスファンファール」「オーメンズ・オブ・ラブ」「名探偵コナンメイナイトマ」「新時代」「アイドル」を演奏。11月10日(金)の創立129年記念式ではほつま体育館の式典にて「金光学園歌」「君が代」「神人の栄光」「(仮訳) Everything for a Dream」を演奏した。11月17日(金) 120大講義室にてベトナムからの留学生との交流会にて、ミニコンサート。「20世紀フォックスファンファール」「オーメンズ・オブ・ラブ」「名探偵コナンメイナイトマ」「新時代」「アイドル」を演奏した。

《音楽部コーラス》 7月8日(土)に岡山県立美術館ホールで第3回国際声楽コンクール東京の岡山大会に参加した。3団体が参加し、うち2団体が上位大会への出場権を得た。【曲目】手紙、てんてんてまりうた、どちりなきりしたん
7月29日(土)に福永宮東夏祭りが学園北側のちびっこ広場で開催され、オープニングで歌を披露した。4年ぶりの開催に花を添えることができた。【曲目】夏モデル
8月5日(土)にふれあい交流館「サ

絆の会総会 @120大講義室「ピギナーズ・デビュー」等を演奏した。7月23日(日) 一日入学にて「20世紀フォックスファンファール」「オーメンズ・オブ・ラブ」「新時代」「ジャンポリミッキー」をオープニングセレモニーで演奏、部活体験も行った。8月4日(金) わかばプロジェクト「集まれ 金光学園へ！」にて小学生の宿題見守りと部活動体験を行った。8月12日(土) わかばプロジェクト「学童サマースクール」の夏まつりでの学サマコンサートで演奏。「20世紀フォックスファンファール」「オーメンズ・オブ・ラブ」「名探偵コナンメイナイトマ」「新時代」「アイドル」「ジャンポリミッキー」「宝島」を演奏した。8月26日(土) 一日入学の部活動体験を行った後、同日夜には浅口市寄島町三ツ山スポーツ公園にて、あさくち花火大会ステージイベントに出演。「20世紀フォックスファンファール」「オーメンズ・オブ・ラブ」「上を向いて歩こう」「名探偵コナンメイナイトマ」「新時代」「アイドル」「宝島」を演奏した。9月10日(日) ほつま祭では「20世紀フォックスファンファール」「オーメンズ・オブ・ラブ」「名探偵コナンメイナイトマ」「新時代」「アイドル」「宝島」「ジャン

ンパレア」でミニサマーコンサートを開催した。主に保護者家族向けの演奏会であったが、たくさんの方に来ていただき、部員にとって自分たちの練習の成果を披露する良い機会となった。【第1ステージ】ロマンズの神様、手紙、てんてんてまりうた、どちりなきりしたん、夏モデル、【第2ステージ】カナタハルカ、RPG、S・M・I・L・E、train、train、リフレイン
9月10日(日)にほつま祭のステージ発表があった。夏モデルを中心に楽しく歌い踊ることができた。
9月22日(金)に来日していたラッドフォードカレッジの生徒との送別会で、冒頭に1曲披露した。【曲目】銀河鉄道999

9月24日(日)に堺市立西文化会館ウエスティで第3回国際声楽コンクール東京の準本選があり、2団体が出場した。どちらも本選への出場権を得た。【曲目】てんてんてまりうた、どちりなきりしたん
11月5日(日)に小金井宮地楽器ホールで第3回国際声楽コンクール東京の本選があり、準本選で選ばれた2団体が出場した。結果、第4位【曲目】一切朝花、

第5位【曲目】我と来て遊べや親のない雀、でそれぞれ入賞をすることができた。普段コンテスト等に参加していないので、予選から本選まで非常に良い経験となった。

11月5日(日)に「マービーふれあいセンター」で第2回交流演奏会「信長まつり」が開催され、コンクール本選に出場しない中学生13名で出演した。4日(土)には合同演奏のリハーサルがあり、作曲者の信長貴富氏から直接指導を受けることができた。少ないメンバーだからこそ大きな成長を見ることができたステージとなった。【曲目】(単独) 未来へ(合同) 夜明けから日暮れまで

《中高放送部》 ほつま祭・体育会でそれぞれ司会やアナウンス、音響などを行い、行事運営の一翼を担った。

《高校美術部》 ほつま祭ポスター原画に使用する作品の制作に部全体で取り組み、投票によって高3天岡あすかの作品を選んだ。部展示では「#YOLLO」人生は一度きり」と題し、部員たちがこれまでに制作した数々の作品を展示した。来年2月に行われる岡山県高校美術展に向けて、個人作品の制作に励んだ。

《中・高新聞部》 10月に中学体育会の結

果報告新聞を作成し、発行した。11月10日に、取材として岡山城を訪問し、学芸員の方からお話を伺い城内を見学した。

《文芸部》 7月に高文連文芸部会が主催する「高校生文芸道場おかやま二〇二二」に出品し、散文部門で高3平山史織が優秀賞を受賞した。同作品は9月に「高校生文芸道場中国ブロック大会」にも出品している。ほつま祭では二年ぶりに文芸誌『榴槤火』を制作し、販売を行った。

九月三十日に就実大学で行われた「高校生文芸道場おかやま二〇二三」に生徒四人が参加し、司会や分科会報告、講師接待などの役割を担いつつ、散文分科会でワークショップを行い、作家から創作の要諦を学んだ。月ごとにテーマを設けて小説を執筆した。作品は月例集にまとめ、批評会を行うことで互いに研鑽を積んだ。

《軽音楽部》 ほつま祭では、緊張しながらも、日頃の練習の成果を発揮してステージ発表をやり遂げた。ペンライトを配って、お客さんとの一体感を創り出すなど新たな試みにチャレンジするとともに、部員も演奏を存分に楽しむことができた。

《囲碁将棋部》 九月三十日に、山陽新聞社九階会議室にて実施された「第四十三

回岡山県高等学校秋季将棋大会」に高校二年生の西 和史、川崎 有生、高校一年生の石村 心の三名が参加した。大会はスイス式トーナメントで実施され、戦績は高二の西と高一の石村は二勝三敗、高二の川崎は一勝四敗であった。

《中男子ソフトテニス部》 7月21日に岡山市浦安総合公園で行われた県総体では、個人戦で横溝・定金ペアが会場し、初戦は水島中に4-2で勝利、2回戦は福田南中に0-4で敗退した。7月29日に笠岡総合スポーツ公園で行われたチャレンジャカップでは、I部に5ペアが会場し、黒川・OPペア、青木・石岡ペアが初戦敗退、横溝・大谷、虫明・香河、定金・藤井ペアは2回戦敗退であった。II部は2ペアが会場し、田村・仁科、奥野・鳴本ペアが決勝トーナメントに進出、決勝トーナメントでは初戦敗退であった。新チームになって8月19日に天野カップに出場、4校6チームと少ない参加数であったが、団体戦で優勝を果たした。9月30日・10月1日に笠岡総合スポーツ公園で行われた備南西地区秋季総体では、個人戦に5ペアが会場し、圓福寺・OP、奥野・鳴本ペアが初戦敗退、黒川・石岡、

田村・仁科ペアが2回戦進出。青木・佐野ペアが3回戦に進出したが、ベスト16で県大会への出場権は得られなかった。団体戦では予選リーグで美星中学校に2-0、金浦中学校には2-1で勝利し、決勝トーナメントで井原中学校に0-2で敗退。3位決定戦で大島中に2-0で勝利し、6年ぶりに団体戦での県大会出場権を得た。11月4日に備前テニスセンターで行われた秋季県総体では、桑田中に0-3で初戦敗退であった。11月11日に井原運動公園で行われたチャレンジカップでは、I部に3ペアが会場し、圓福寺・OP、黒川・石岡ペアが予選リーグ敗退、青木・佐野ペアが決勝トーナメントに進出した。II部に2ペアが会場し、奥野・鳴本ペアが予選リーグ敗退、田村・仁科ペアが準優勝を果たした。

《高男子ソフトテニス部》 夏休み以降は、中3を交えて練習を行っている。8月18日・20日に水島緑地福田公園で行われた高梁川流域高等学校ソフトテニス大会では、個人戦に能宗・高野、生藤・板野、早野・桑田健、桑田亮・竹内ペアが会場し、いずれも初戦敗退であった。団体戦は倉敷古城池Aに初戦敗退であった。9

月16日に玉島の森で行われた新人戦(ダブルス)地区予選会では、桑田亮・竹内、早野・板野、能宗・矢島、高野・生藤、金光・桑田健ペアが会場し、能宗・矢島、高野・生藤ペアは初戦に勝利した。11月5日に浦安総合公園で行われた岡山県高校新人ソフトテニス大会(団体)では、初戦に倉敷鷺羽高校に0-3で敗れた。

《中女子ソフトテニス部》 7月29日に井原運動公園テニスコートで行われた、夏季チャレンジ備南西地区中学生ソフトテニス大会に5ペア(I部に中3が3ペア、II部に中1が2ペア)が会場し、I部では2回戦までに敗退、II部では金光・入江ペアが優勝。新チームになってからは近隣の中学校などとの合同練習や練習試合に励み、試合経験を積んだ。9月30日・10月1日に笠岡総合スポーツ公園テニスコートで行われた、備南西地区中学生秋季ソフトテニス大会では、個人戦に3ペアが会場し、金光・入江ペアが2回戦敗退、小幡・仁科ペア、高木・田邊ペアは1回戦敗退。団体戦では予選リーグで小北中学校、金浦中学校にそれぞれ0-3で敗れ、県大会出場はならなかった。11月11日に笠岡総合スポーツ公園テニスコ

トで行われた、秋季チャレンジ備南西地区中学生ソフトテニス大会(II部)に3ペアが会場し、金光・入江ペアが準優勝。他のペアは健闘及ばず、勝利を掴むことはできなかった。

《高女子ソフトテニス部》 8月18日に福田公園テニスコートで行われた高梁川流域高校ソフトテニス大会に安藤・古江ペアが会場し、1回戦敗退。9月16日に玉島の森テニスコートで行われた岡山県高校新人大会備西地区予選《ダブルス》にベ安藤・古江ペアが会場し、2回戦で敗退したが、組み合わせ(出場枠)の関係で、県大会出場権を獲得した。11月11日に福田公園テニスコートで行われた岡山県高校新人ソフトテニス大会《ダブルス》に安藤・古江ペアが会場し、2回戦で倉敷商業高校のペアに敗れた。

《中卓球部》 7月9日に福山市会長杯オープン卓球大会に参加した。男子Cクラスの決勝トーナメントでAチームが準優勝、Bチームがベスト7に、また2位トーナメントでCチームがベスト4に入った。7月24、25日に岡山県総合体育大会に出場した。男子団体では1回戦で奈義に5-0で勝ち、2回戦で玉島東に1-3

で敗れベスト16であった。男子シングルスでは小谷（L3）がベスト64、安藤（L3）と山田（L3）が1回戦敗退であった。女子シングルスでは藤原（L3）がベスト64であった。

8月4日にカデットダブルス大会（二部）に参加した。男子ダブルスで金子（L2）・下久保（L2）組・黒川（L2）・福上（L2）組がベスト32に入った。

8月7日にカデットシングルス大会（二部）に参加した。男子14歳以下の部で金子がベスト32、黒川と福上と川合（L2）がベスト64であった。

8月19日に第16回近隣中学校オープン大会に参加した。男子団体ではAクラスで8勝1敗で準優勝した。Bクラスでは3位に入賞した。

9月30日、10月1日に備南西地区秋季大会に出場した。男子団体では8勝0敗で優勝し、県大会の出場を決めた。男子シングルスでは下久保と福上が5位、東が9位で県大会の出場を決めた。ベスト16に黒川、ベスト32に金子が入った。女子シングルスでは板野がベスト32に入った。10月21日に宗歳義勝記念オープン卓球大会に参加した。男子シングルスで小谷

が3位に入賞した。

10月29日に第15回井原卓球協会会長杯争奪卓球大会に参加した。男子団体ではAチームがベスト4、Bチームがベスト12、Cチームが2位トーナメントで決勝まで進んだ。

11月4、5日に岡山県秋季卓球大会に出場した。男子団体では予選リーグで岡大附属に3―2、八浜に3―0で勝ち、新田に1―3で敗退しベスト16であった。男子シングルスでは下久保がベスト32、東と福上がベスト64に入った。

《高卓球部》 7月15日～16日に特別国民体育大会県予選（少年の部）に参加した。男子シングルスでは、白神（U2）が強豪を倒し、第6位の好成績を収め、齋藤（U2）・藤井（U2）がベスト64、女子シングルスでは、川上（U2）がベスト32に進出した。

7月30日に倉敷市長杯に参加した。男子団体戦（メンバーはU2岸本・齋藤・白神、U1中藤）で第3位に入賞した。

8月2日に倉敷ジュニア卓球選手権（個人戦）に参加した。男子の部で、U2白神が予選1位トーナメントでベスト8、U2藤井がベスト16に進出した。女子の

部では、U2川上が予選2位トーナメントで優勝した。

8月21日に県高校学年別卓球大会（個人戦）に参加した。男子2年生の部で、白神が昨年に次ぐ準優勝、齋藤がベスト16に進出した。

8月16日～18日に香川県坂出市で行われた西日本オープン卓球研修大会に参加した。3日間の長丁場にわたり、他県の強豪校と対戦できる貴重な経験であった。

8月24日～25日に県高校秋季卓球大会（団体戦、メンバーはU2金子・岸本・齋藤・白神・藤井、U1中藤）に参加した。予選リーグを1位で突破し、決勝トーナメント1回戦が笠岡工業、2回戦が津山高校にいずれも3―0で勝利し、ベスト8に進出した。決勝1次リーグでは、総社南に3―1、水島工業に3―1で勝ち、関西に敗れたが1―4位を決定する決勝2次リーグに進出し、倉敷工業に0―3、玉野光南に2―3で敗れたが、同大会では数年ぶりの3位入賞を果たした。

9月16日に全日本選手権ジュニアの部県予選会に参加した。男子シングルスでは、U2白神がベスト16、U2齋藤がベスト32、U2藤井がベスト64に、女子シング

ルスではU2川上がベスト32に進出した。

その後、10月15日に鳥取東高校との練習試合、10月21日に広島県府中市で行われた宗歳杯争奪卓球選手権に参加するとともに実践経験を積み、10月28日・30日には中国選抜大会・全国選抜大会の出場権を賭けた県高校新人卓球大会（団体戦）に出場した。2回戦井原高校に3―0、3回戦岡山学芸館高校に3―1で勝ち、ベスト8に進出した。決勝1次リーグでは、岡山商大付属高校に3―1、岡山東商に3―1で勝ち、関西には敗れたが1―4位を決定する決勝2次リーグに進出した。同リーグでは、倉敷工業に0―3で敗れたが、水島工業に3―1で勝ち、昨年に次ぐ3位入賞を果たすとともに、12月23日～25日にジップアリーナ岡山で行われる全国選抜卓球大会中国地区予選会への出場権を獲得した。

《中サッカー部》 9月17日に練習試合を行い、対アルコ里庄（0―1）、対アルコ里庄（2―0）。9月30日、10月1日の備南西地区中学校秋季大会サッカー大会の結果は次のとおりである。対高屋中学校（8―0）、対鴨方中学校（4―3）、対矢掛中学校（0―0）。結果一位通過で県

大会に出場が決まった。10月29日に練習試合を行い、対玉島西中学校（3―1）、

対玉島西中学校（1―1）、対味野中学校（6―1）、対味野中学校（2―1）。11月4日の県大会の結果は次のとおりである。対芳泉中学校（0―1）。11月12日の第13回浅口地区ライオンズクラブ杯の結果は次のとおりである。対長船中学校（2―1）、対芳田・宇野中学校（3―0）。一位通過で決勝リーグに進み、対鴨方中学校（2―0）で優勝することができた。

《高サッカー部》 高円宮杯U-18サッカーリーグ2023OKAYAMAチャレンジリーグの結果（続き）は次の通りである。7月15日、対東岡山工業B（0―7）、B戦（0―3）、7月16日、対玉野商工（5―2）、B戦は対山陽学園（1―0）、7月22日、対津山工業（5―0）、B戦（1―2）。7月29日に練習試合を行い、対笠岡工業（3―2）。8月5日、6日には西日本サマーフェスティバルに参加し、対国泰寺B（2―0）、対鷺羽（4―1）、対兵庫県大附（2―1）、対福崎（5―2）。8月27日には、U16大会に参加し、対おかやま龍谷（1―2）、対西大寺（1―3）。高円宮杯U-18サッカーリーグ2023OKAYAMA

チャレンジリーグ（後期）の途中結果は次の通りである。8月26日、対天城（3―1）、9月18日、対瀬戸（5―0）、B

戦は対興陽（0―2）。9月2日、玉島商業と練習試合を行い、A戦（8―2）、B戦（0―1）。9月17日から始まった選手権大会の結果は、1回戦、対和気閑谷（8―0）、2回戦、対龍谷（1―7）であった。《高野球部》 7月10日より開幕した第105回全国高等学校野球選手権岡山大会は、一回戦で倉敷鷺羽・備前緑陽高校合同チームに14対3（5回コールド）で勝利し、二回戦で岡山商大附属高校に7対0で勝利しましたが、三回戦で就実高校に0対10（5回コールド）で敗れました。

新チームになり、8月26日から秋季岡山県高等学校野球大会西部地区予選が行われました。初戦の方谷學舎高校に10対0で勝利し、次戦の倉敷高校戦も9対2で勝利し、ブロック1位となり県大会出場権を得ました。県大会出場校の順位決定戦は玉島商業高校に4対6（延長10回）で敗れました。県大会は2位として出場となりました。県大会は一回戦で作陽学園高校に2対1で勝利しましたが、二回戦で学芸館高校に0対7で敗れ、ベス

ト16での敗退となりました。

11月には岡山県高等学校野球一年生大会が行われ、二回戦で津山商業高校に5対2で勝利しました。三回戦で、美作高校に4対7で敗れ、ベスト16での敗退となりました。

《柔道部》 7月21日に岡山武道館で、令和5年度岡山県中学校総合体育大会柔道競技が行われた。男子個人戦では2名が出場し、それぞれが善戦した。

7月22日に福岡市の昭葉積水ハウスアリーナで、金鷲旗大会が行われた。男子団体戦では1回戦で愛知県愛知桜丘高校と対戦し、敗れた。

8月5日に本校でBBQを、部員、保護者の他たくさんさんのOBにも参加していただき、盛大に開催できた。

9月30日に里庄武道館で、令和5年度岡山県中学校体育連盟備南西地区秋季柔道大会が行われた。男子団体戦は笠岡彰善館及び里庄中学校に敗れた。男子個人戦では計4名が出場し、内2名が県大会の出場権を得た。

10月28、29日に岡山武道館で第73回岡山県高等学校柔道優勝大会が行われた。男子団体戦では1回戦に県立倉敷工業高

校と対戦し、2―3で敗れた。その後行われた中国大会の補充枠獲得トーナメントで県立勝間田高校に4―1で、岡山商科大学附属高校に3―2で、県立笠岡商業高校に3―1で勝利し、9位10位順位決定戦で県立東岡山工業高校に1―4で敗れたものの、第10位で中国大会への出場権を得た。男子個人戦では5名が出場し、それぞれが善戦した。

《剣道部》(備南西地区大会) 6月17日(土)笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、男子個人試合で本多啓裕(1年)が2回戦敗退、雀部燦(2年)がベスト8となり県大会出場権を得た。

《県大会》 7月22日(土)宮本武蔵顕彰武蔵武道館で開催され、男子個人試合で雀部燦(2年)が1回戦敗退であった。《段級審査会》 8月6日(日)雀部燦(2年)が初段合格。11月26日(日)本多啓裕(1年)が初段合格。

《備南西地区秋季大会》 9月30日(土)笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、男子個人試合で雀部燦(2年)がベスト8、本多啓裕(1年)が3位入賞し、ともに県大会出場権を得た。《県大会》 11月5日(日)和気町体育館

お世話になりました多くの方々にご報告いたします。

《中少林寺拳法部》 8/18―19に新潟県で行われた全国中学生少林寺拳法大会に6名が出場した。男子単独演武の部で田淵伸太郎(中3)、能宗智(中3)が準決勝進出、女子単独演武の部で小林佳未(中2)、白神凜(中2)が予選敗退、女子組演武の部で小野さくら(中2)、和田悠里(中2)が準決勝進出という結果であった。

10/15に本校で行われた特別練習会Chance up!2023に8名が参加した。県下指導者や選手と交流し、来年度岡山県で開催される全国大会へ向けて良い刺激を受けた。

《高少林寺拳法部》 7/21―23に北海道で行われたインターハイに7名が出場した。男子単独演武の部に原田大地(高3)、女子組演武の部に尾高愛琉・高橋里桜奈(高2)、女子団体演武の部に岸本奈那美・籠崎なずな・恒本紗都・尾高愛琉・高橋里桜奈・佐藤史織が出場したが、いずれも予選敗退という結果であった。

10/8―9に東京都で行われた世界大会Min Tokyo, Japanに原田大地(高3)が

出場した。

11/4に県立岡山工業高校で行われた岡山県新人大会に出場した。男子自由単独演武の部で西山和志(高1)が2位、山内和人(高2)が3位、渡邊康稀(高1)が4位、中尾優那(高1)が5位、高田祥希(高2)が9位、女子自由単独演武の部で岸本奈那美(高2)が優勝、男子規定単独演武の部で天野蓮太郎(高1)が優勝、女子規定単独演武の部で佐藤史織(高2)が優勝、女子自由組演武の部で尾高愛琉・高橋里桜奈(高2)が優勝、籠崎なずな・恒本紗都(高2)が2位、男子団体演武の部で山内・高田・中尾・西山・渡邊・天野が2位、女子団体演武の部で岸本・籠崎・恒本・尾高・高橋・佐藤が優勝した。

《中陸上競技部》

【全国大会】

○U16陸上競技大会が愛媛県ニンジニアスタジアムで開催され、佐藤地央が走幅跳で優勝した。

○国民体育大会が鹿児島県白波スタジアムで開催され、瀧本椰々子が100mと400mリレーに岡山県代表選手として出場した。○U16都道府県対抗リレーが東京都国立

で開催され、男子個人試合で雀部燦(2年)が1回戦敗退、本多啓裕(1年)が2回戦敗退であった。

《浅口市剣道大会》 11月19日(日)天草公園体育館で開催され、団体試合で中学校チームは1回戦敗退であった。個人試合は本多啓裕(1年)が2回戦敗退、秋吉理名(1年)が1回戦敗退であった。

《高剣道部》(中国大会予選会) 4月22日(土) 23日(日)和気町体育館で開催され、男子団体試合は1回戦で城東高校に敗れた。男子個人試合では、山下劉(2年)が1回戦敗退、才野恵翔(2年)が2回戦敗退、藤井大輔(1年)が3回戦敗退であった。

《県総体》 6月3日(土) 6月4日(日)笠岡総合体育館で開催され、男子団体試合は2回戦で就実高校に敗れた。男子個人試合は、才野恵翔(2年)が1回戦敗退、藤井大輔(1年)が2回戦敗退であった。《新人戦》 11月5日(日)津山総合体育館で開催され、男子個人試合で藤井大輔(1年)が3回戦敗退であった。

《中高剣道部》 奉祝「金光学園創立百二十九年」を心よりお祝いし、11月11日(金)の「記念稽古会」で快い汗を流しました。

競技場で開催され、水流和々花・瀧本椰々子・佐藤地央が岡山県代表選手として出場した。

○全国中学校総合体育大会が愛媛県ニンジニアスタジアムで開催され走幅跳で佐藤地央が4位、400mリレーで伊藤瑞・佐藤地央・水流和々花・瀧本椰々子が4位に入賞。瀧本椰々子が200mに出場した。

【中国大会】

○中国中学陸上が広島県で開催され、400mリレーで山田桃実・伊藤瑞・水流和々花・板倉葵海が優勝。瀧本椰々子が100mで優勝、200mで2位。佐藤地央が走幅跳で2位、100mで3位。水流和々花が200mで6位に入賞した。

○中国五県陸上が鳥取県で開催され、400mリレーに山田桃実・伊藤瑞・水流和々花・板倉葵海が出場した。

【県大会】

○岡山県中学校混成記録会が開催され、瀧本椰々子100mで優勝、水流和々花2位。佐藤地央が走幅跳で優勝。100mハードルで伊藤瑞が2位、板倉葵海が5位、山田桃実が6位に入賞した。

○岡山県中学校陸上競技選手権大会が開催され、水流和々花が100mで優勝、200m

で瀧本椰々子が優勝、佐藤地央が走幅跳で優勝、100mハードルで伊藤瑞が6位に入賞した。

○岡山県ジュニア陸上大会が開催され佐藤地央が150m(岡山県中学校新記録)と走幅跳で優勝、150mで水流和々花が3位、伊藤瑞が100mで7位に入賞した。

○岡山県中学校秋季記録会が開催され、小野礼翔が100mで5位。伊藤瑞が100mで8位、100mハードル7位。水流和々花が400mで優勝。佐藤地央が走幅跳で優勝した。

○岡山陸上競技カーニバル(一般・大学・高校・中学参加)が開催され、中学110mハードルで小野礼翔が2位。中学100mハードルで伊藤瑞が6位。水流和々花が一般200mで7位。水流和々花・佐藤地中央・伊藤瑞・板倉葵海が一般160mリレーで3位に入賞した。

○国民体育大会最終予選が開催され、走幅跳で佐藤地央が優勝。100mで瀧本椰々子が優勝、水流和々花が6位に入賞した。

〔夏季地区予選〕

男子

3年100mで北山航平が2位、小川聡太が4位。2年100mで小野礼翔が優勝、原田英明が8位。1年100mで榎本航が3位、

藤井勇気が5位、水川嵩大が6位。200mで小野礼翔が優勝。400mで北山航平が優勝。1年150mで平井慶太が3位、秋岡泰介が4位。走幅跳で榎本航が3位。4×100mリレーで北山航平・小川聡太・小野礼翔・原田英明が優勝した。

女子

3年100mで瀧本椰々子が優勝、佐藤地央が2位、水流和々花が3位。1年100mで仁科志帆が2位。200mで瀧本椰々子が1位、水流和々花が2位、仁科志帆が4位。100mハードルで伊藤瑞が2位、山田桃実が3位、板倉葵海が4位。平井愛佳が800mで4位、1500mで3位。走幅跳で佐藤地央が優勝。4×100mリレーで板倉葵海・佐藤地央・水流和々花・瀧本椰々子が優勝した。

〔秋季地区予選〕

男子

2年100mで小野礼翔が優勝、1年100mで榎本航が3位。200mで小野礼翔が優勝、原田英明が6位、水川嵩大が8位。1500mで平井慶太が3位、秋岡泰介が4位。走幅跳で榎本航が4位、藤井勇気が7位。400mリレーで水川嵩大・榎本航・秋岡泰介・藤井勇気が3位に入賞した。

女子

2年100mで細谷菜広が7位、1年100mで仁科志帆が2位。200mで仁科志帆が優勝した。

《高陸上競技部》

〔中国大会〕

○中国高等学校陸上競技大会が岡山県で開催され、松村涼太郎が走幅跳に出場した。

○中国五県陸上が鳥取県で開催され、爲房百恵が走幅跳に出場した。

〔県大会〕

○岡山県高等学校総合体育大会が開催され、松村涼太郎が走幅跳で2位。中野結が400mハードルで8位に入賞した。

○岡山県陸上競技選手権が開催され、爲房百恵が走幅跳で8位に入賞した。

○岡山県高等学校陸上競技選手権大会が開催され、爲房百恵が走幅跳で6位、三段跳で7位に入賞した。

○岡山県新人陸上が開催され、爲房百恵が走幅跳と三段跳で6位に入賞した。

○国民体育大会最終予選が開催され、松村涼太郎が走幅跳で2位、爲房百恵が8位。田中結菜が走高跳で8位に入賞した。

《中男子バスケットボール部》 7月21日に岡山県中学校バスケットボール選手権

大会が笠岡総合体育館で行われた。1回戦では、邑久中学校と対戦し45―38で勝利、続く2回戦では、岡山中央中学校と対戦し62―41で敗退。岡山県ベスト16となりこの大会を終えた。チームの中心であった3年生はここで引退となったが、3年間の努力を充分に発揮してくれた。

9月30日に備南西地区秋季体育大会が天草体育館で行われた。新チームとなって初めての大会だったが、1回戦では、鴨方中学校と対戦し64―50で敗退し県大会への出場はできなかった。

《中女子バスケットボール部》 6月17日(土)・18日(日)に矢掛中学校体育館で行われた備南西地区総合体育大会が行われた。1回戦 鴨方中学校と対戦し、鴨方中57―36金光学園で敗れた。

9月30日(土)・10月1日(日)に天草公園体育館で行われた備南西地区秋季体育大会が行われた。1回戦 井原中学校と対戦し、井原中25―58金光学園で勝利した。準決勝では、里庄中学校と対戦し、里庄中28―27金光学園で敗れた。

《高男子バスケットボール部》 9月16日から第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会岡山県予選会が開催された。

本校男子バスケットボール部は、総体の結果を受けて第6シードで大会に参加した。初戦となる10月28日の津山高校戦では、新チームとして初めて臨む公式戦ともあり硬さは見られたが、最後まで粘り強く戦い、勝利することができた。翌日の準々決勝では、ベスト4をかけて岡山学芸館高校と対戦し敗れた。これから1年間、どのようなチームになるのかを改めて考えることができる良い機会となった。

11月18日から2週に渡り、第76回岡山県高等学校バスケットボール新人優勝大会 備中地区予選会が開催された。1回戦はシードとなり、2回戦では総社高校と対戦し勝利し、翌週のブロック決勝に進出が決まった。25日(土)には、ブロック決勝で倉敷商業高校と対戦し勝利し、26日に行われる決勝トーナメントに進出した。4校で行われる決勝トーナメント初戦では、倉敷青陵高校と対戦し敗れた。3位決定戦で、倉敷工業高校と対戦し勝利し、備中地区予選を3位で終え、来年1月に開催される県大会へ出場する。

《高女子バスケットボール部》 9月24日に開催された第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会岡山県予選会に

出場し、岡山朝日高校と対戦し47―46で敗れた。

《中男子バレーボール部》

令和5年度後半の戦績

新チームとして10月の備南西地区大会を優勝。11月の県新人大会でも優勝。

2月に広島で行われる中国新人大会への出場権を獲得。

《高男子バレーボール部》

4月 岡山県高等学校春季バレーボール大会

3回戦 金光学園2―0岡山工業

3回戦 金光学園2―0倉敷商業

準決勝 金光学園2―0岡山東商業

決勝 金光学園2―1玉野光南

優勝 中国高等学校バレーボール選手権大会出場権獲得

5月 中国高等学校バレーボール選手権大会

2回戦 金光学園2―0瀬戸内

準々決勝 金光学園2―0松江工業

準決勝 金光学園0―2高川学園

第3位 (山口1位)

6月 岡山県高等学校総合体育大会
バレーボール競技

4回戦 金光学園2-0津山東
準々決勝 金光学園2-0倉敷天城
準決勝 金光学園2-0岡山東商業
決勝 金光学園2-0関西
優勝 全国高等学校総合体育大会
会(北海道インターハイ)

出場権獲得(4年ぶり6
回目)

8月 全国高等学校総合体育大会(北海
道インターハイ) バレーボール競技
グループ戦

金光学園2(25-22 25-23) 0日本
航空(山梨県)

決勝トーナメント

2回戦

金光学園2(22-25 27-25 25-

22) 1弘前工業(青森県)

3回戦

金光学園0(17-25 14-25) 2東

山(京都府)

ベスト16

引き続き頑張ります。

《ダンス部》今年度、初めて夏の高校野
球岡山県大会に応援チアとして参加し、

学園だより

サマーチャレンジ 7月26日から28日、
特別進学クラス全員と総合進学クラスの
希望者を対象に、サマーチャレンジを
実施した。3日間で集中的に発展的な学習
に取り組んだ。

サマーイングリッシュビレッジ 7月
31日から8月5日にサマーイングリッシュ
ビレッジを実施した。7月31日から2日
に初級を、3日から5日に中級を実施し
た。生徒10人に対して1人の割合で外国
人講師がオールイングリッシュの授業を
行った。

教職員夏期研修 8月17から18日、全
職員が参加して36回目の夏期研修が行わ
れた。初日は、Pontone Future School、
畝尾美友紀先生による講演「発達障害を
抱えた生徒および保護者対応について」
を聴き、質疑応答を交わした。2日目は
玉島消防署の消防官による救命救急講習
を行い、実り多き研修会となった。

精一杯のエネルギーを送ることができた。8
月5日には、ハーバードダンスin玉島に参
加し、お祭り元気いっぱいダンスを披
露した。ほつま祭では、日頃の練習の成
果を存分に発揮することができた。

《木崎ボランティア部》ほつま祭では、
高校3年生を中心に物品販売を行った。

その物品販売の売上金を日本赤十字社の
「2023年モロッコ地震救援金」に寄付
した。さらに、そこで、本校卒業生が主
催する兵庫県のボランティア団体「夏色」
にもご協力をいただき、古着物のリサイ
クル製品を販売し、その売上金から経費
を指し引いた金額を、あしなが東日本大
震災遺児支援募金に寄付した。

また、金光公民館主催の夏ガクサプリ
のボランティアや、浅口市主催の国際交
流フェスティバルやスポーツ遊びボラン
ティアなどを広く案内し、生徒の協力を
得て、各行事の運営をサポートした。

《その他(水泳競技)》7月15日、16日に
倉敷市屋内水泳センターで行われた第61
回岡山県中学校総合体育大会水泳競技の
部に中1平井慶太、中2中原桃子、中3
小川聡太、田口大輝、平井愛佳が出場し
た。小川が100m平泳ぎ1位、200m平泳ぎ

始業式 8月21日、ほつま体育館に全
校生徒が集合しての2学期始業式が行わ
れた。

一日体験入学パートⅢ 8月26日、中
学生を対象としたオープンスクールを開
催した。14時30分から中学生と保護者対
象に授業体験、部活動体験、説明会など
を行った。

教育実習 8月28日から9月9日まで
の2週間に卒業生1名が、9月16日まで
の3週間に卒業生2名が実習を行った。
金光学園杯小学生招待バレーボール大会
9月3日、第19回になる大会が、小学生
20チームを招待しほつま体育館で開催さ
れた。

ほつま祭・一日入学パートⅣ 9月9
日から10日にほつま祭が開催された。来
場者制限は設けず、高3生による夏祭り
の遊び体験や、保護者の方によるキッチ
ンカー等が新たに加わり、コロナ禍以前
の賑わいを取り戻した2日間であった。

高校体育会 9月13日、保護者の方に
もご来校いただき高校体育会が開催され
た。それぞれの競技でブロック対抗の熱
戦が繰り広げられた。
ラッドフォード校来校 9月19日から

3位となり、中国大会への出場を決めた。
田口が200mバタフライで4位と健闘した。
8月5日、6日に児島マリンプールで
行われた第57回中国中学校水泳競技選手
権大会に中3小川聡太が出場した。100m
平泳ぎ3位、200m平泳ぎ5位と力を発揮
した。

9月17日に岡山市立岡山市民屋内温水
プールで行われた岡山県中学校秋季水泳
競技大会に中1平井慶太、中2中原桃子
が出場し、日頃の練習の成果を発揮した。

25日に姉妹校であるオーストラリアの
Radford Collegeから生徒16名と引率教員
2名の計18名が来校され、第6回姉妹校
交流が行われた。授業や部活動をホスト
ブラザーやホストシスターと体験し、広
島研修や中学体育会に参加するなど充実
したプログラムの中、互いの絆を深め合っ
た。

高1・高2進路講演 9月22日の6時
間目に高1が、9月29日の6時間目に高
2が、ベネッセコーポレーションの菅原
麻由果氏による「これからの学習に向けて」
と題した講演を聴き、学力向上に向けて
大切な2学期の過ごし方について学んだ。
中学体育会 9月23日、中学体育会が
開催された。前日の雨の影響で開催時間
が少し遅れたものの、ラッドフォードの
留学生も交え、多くの保護者も来校し、
大変な盛り上がりの中、熱戦が繰り広げ
られた。

高1進路講演 9月26日、5〜7時
間に高1が「仕事の流儀〜あなたたちの
未来は全てがきらり〜」と題し、本校の
卒業生を含めた各職業人23名をお招きし、
講義を聴いた。
中学教員対象説明会 9月27日、県内

外の中学校の先生27名をお招きし、令和6年度入試の説明会を開催した。

塾対象説明会 9月28日、塾の先生方を対象に令和6年度の中学・高校入試などについて説明を行った。

京都アメリカ大学コンソーシアム来校

9月29日、京都アメリカコンソーシアムの大学生21名が来校した。6時間目に中学3年生と交流会を行い、放課後は部活動体験を行った。その後12大講義室で歓迎会が開催され、音楽部吹奏楽団によるミニコンサート、ホストファミリーや国際交流クラブのメンバーも参加しての交流が行われた。

2学期中間考査 高校は10月7日から、中3は10日から、中1、2は11日から12日まで2学期中間考査を実施した。

金光学園杯小学生卓球大会 10月8日、第23回卓球大会が小体育館で開催された。63名の参加があり、シングルスで男女別に優勝杯を競い合った。

一日体験入学パートV 10月14日(土)、小学校5、6年生を対象にしたオープンスクールを実施した。11時20分から授業見学、食堂体験、部活動体験、学園生による説明会などを行った。児童は83名、総

を学んだ。

PIANO & BASS JAZZ CONCERT

11月4日の15:15～16:15に、大ホールにてバス奏者の中村尚美さんと、ピアノ奏者のIZUMI GUISANDOさんによるコンサートが行われた。



読書会 中2は11月7日に、高1は11月17日に、中1は11月21日に、高2は12月1日に、それぞれ学年で希望の本を選び、各グループに分かれて、意見交換を行った。

創立129年記念式

11月10日、4年ぶりにコロナ禍前の形式に戻した創立129年の記念式が挙行された。生徒代表 新谷莉子さんの所願表明は大変すばらしく、後輩に向けて大変な元気を与えた。式典後、高23回卒業の岡山済生会総合病院院長 塩出純二先生のお話をお聞きした。

員230名が来校された。

Kibi Autumn Adventure 10月15日、16日一泊二日の中2は国立吉備青少年自然の家で、Kibi Autumn Adventureを行った。学年の生徒を8つのチームに分け、ベルリッツの9名の外国人講師の指導の下、それぞれがオールイングリッシュで4つのテーマ活動に臨んだ。夕食後は留学生24人と交流を深めた。2日目はオリエンテーリングなどを行い有意義な研修となった。

中1性教育 10月17日、中1は男女の身体の仕組みや、心のあり方が異なることを説明したビデオを鑑賞し、感想文を書いた。10月27日には感想文をまとめた学年通信をもとに、男女の違いを理解するとともに、人と人とのよりよい関係づくりについて学んだ。

避難訓練 10月18日、火災が発生したとして避難訓練を実施した。

中3フィールドスタディ福山市企業訪問

10月20日、中3は総合学習の一環として福山市にある22企業への訪問を行った。各自希望する企業へは、交通手段も自力で調べ、公共機関を使ってグループごと訪問した。到着後は、企業見学をした

中1・2進路学習

11月15日、中1は3～4限目に25名の方に、中2は5～6限目に30名の方に、それぞれほつま体育館にてNPOだっぴの方に「指導いただき、「大人と夢を語るプログラム」と題し、将来の職業を見据えた中学校時代の過ごし方について考えた。

ベトナムマリーキュリー高等学校来校

11月17日、ベトナムのマリーキュリー高等学校の生徒10名と引率2名が来校した。中・高の授業を終日体験し、放課後は部活動体験も行った。16:30からフェアウェルセレモニーとして吹奏楽部によるミニコンサートなどが行われた。

人権教育

高2は、11月17日、笠岡市人権擁護委員の方8名をお招きしてデパートDVについて講演をしていただいた。高1は、12月15日、岡山弁護士会から近藤剛氏をお招きし、ハンセン病問題について講演をしていただいた。

探究Ⅱ校内発表会

11月29日に特進クラス理系選択者による発表、30日に特進クラス文系選択者による発表が行われた。両日とも120大講義室で行われ、テーマごとに、スライドによるプレゼンテーションを行った。

り仕事内容の説明を聞いたりすることで、将来の職業について考えるよききっかけとなった。

球技大会 10月20日、天候が不安定な中であつたが、高1・2年の球技大会が開催された。

中学・高校入試模擬テスト

10月22日、来春の中学校入試を受験する小学校6年生を対象に、10月28日、来春の高等学校入試を受験する中学3年生と学園の中学3年生(希望者)を対象に模擬テストを行い、多くの受験生が本番さながらに挑戦した。また高校の推薦入試希望者には面接を行った。その後、入試説明が行われ、それぞれに令和6年度入試についての説明を行った。

韓国春川女子高校第11回姉妹校交流

10月24日から28日に姉妹校である韓国の春川女子高校から生徒15名と引率教員3名の計18名が来校され、第11回姉妹校交流が行われた。授業や部活動をホストブラザーやホストシスターと体験し、倉敷、広島研修に参加するなど充実したプログラムの中、互いの絆を深め合った。

中3進路学習

10月24日、中3は高校教務課長から高校の学習について心構え

2学期末考査

高校は12月2日から、中学は4日から8日まで期末考査を実施した。

中3美術館見学

12月12日、学校メンプラス制度を利用し、中3は大原美術館等の見学を行った。

2学期終業式

12月23日、2学期終業式をほつま体育館で行った。ウインターチャレンジ 12月25日～27日の3日間、高校1・2年の特進クラスと総進クラスの希望者が参加し、実施した。Konkou Gakuen Winter English Village 12月26日～27日に、11名で実施した。

お悔やみ

平川真太郎先生の御尊父には8月26日にご逝去、脇本知子先生の御丈母には8月30日にご逝去、定金肇先生の御母堂には10月11日にご逝去、事務長 藤井尚氏の御丈母には10月18日にご逝去、吉永敬子先生の御尊父には10月28日にご逝去、中田竜太さん(高1保護者)には11月19日にご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

高2 修学旅行 オーストラリア



高2 修学旅行 シンガポール・マレーシア



高2 修学旅行 北海道



教室の窓から

数年ぶりのクラス担任。なんだか新任に戻ったようにワクワクして迎えた新年度。「クラスの掲げ物はこうして：」「係や委員会はどういう分担で：」「これはここに配置して：」「あ、あれがあつたら便利かも！」：「なんだか一人暮らしでも始めるのかという勢いであるが、私は担任をすることになったら、いつもこの「間取り」を最優先に考えている。なぜならば、私にとってクラスとは「家」だ。なので、住環境を整えることは最優先事項なのだ。

私は担任をするにあたり、いくつかの「決め事」をしている。「学校での様子をできるだけメールや学級通信などで伝える」「家庭連絡は電話をして親御さんと会話をする」。どれも私の自己満足ではあるが、ありがたいことにどのご家庭からもご理解をいただくことができています。その中の一つに、「生徒を下の名前で呼ぶ」というものがある。それも「○○くん」「○○ちゃん」ではなく、できるだけ各家庭で呼ばれている呼び名にするようにしている。やもすればこれはプライバシーに踏み込みすぎていて、教師と生徒の「線」を画していないと指摘されるかもしれない。それでも私は、新年度の最初に各家庭に了承を得て呼ばせていただいている。

なぜか。それは、私にとって、名前とは「その子がいち人格を持った、この世でたった一人の存在である証」であり、「親からもらった最

初のプレゼント」であり、「一生消えない祈り」であるからだ。夫婦別姓が認められた世の中になつてきているが、未だ結婚にあつて名字が変わることは一般的である。しかし、名前は決して変わらない。その子がその子であり続けるのと同じように。だから私は、その名前を授けてくださった親御さんの想いを大切にしたいと考えた時、「学校での親と接し大切にクラスとは家である」という持論を抱いたのだ。

私の学級通信のタイトルは「おかえり」。どんな人にも必ず帰る場所があり、そこには自分のことを待っていてくれる人がいる。どんなに気分が暗れなくても、「おかえり」という言葉を聞くと、どこかホッとするのは私だけではないと思う。そんな場所を学校にも作ってあげたい。移動教室に向かうときは「いってらっしゃい！」「帰ってきたときは「おかえり！」。最初はどの子もドキマギしていたが、今では普通に「行ってきまーす！」「ただいまー！」と言ってくれるようになった。自然と「昨日こんな事あつたんよ！」「これ家ではこうだったのに！」など、それぞれの家庭での出来事を話してくれるようになった。

「ほら！もう帰るよー！」と、私も母親になつた気分。

「我が家」に集う31名の「子供」たち。新年度が始まるときに飾った私の大好きなひまわりの花たちが迎える教室。花があると気分が良い。そんな教室の窓から、今日も元氣な声が聞こえてきている。その声はみな、キラキラと輝く宝物である。

編集後記

これまでの2年間で発行された12月号に比べ、格段に紙面が増えた印象を覚えた方もおられるのではないかと。コロナ禍による制限がほぼ撤廃され、本来の金光学園の行事が復活した2学期であった。12月号では二大行事であるほつま祭や体育会の感想文を紹介しているが、生徒だけでなく保護者の方々の感想も記載している。様々な行事の復活を楽しみにしていたのは生徒や教員だけではない。学園の頼もしい応援団である保護者の皆様もまた、行事で得られる感動を待ち焦がれて下さっていた。

仲間とともに頭をひねり、汗をかき、手足を動かし、頭の中にあるイメージを表現していく。これに勝る学びはないと思っている。金光学園が12年に渡って培ってきた「学・徳・体」の全人教育の意義や素晴らしさを今年ほど強く意識したことはない。

令和5年12月15日印刷

12月22日発行

編集者

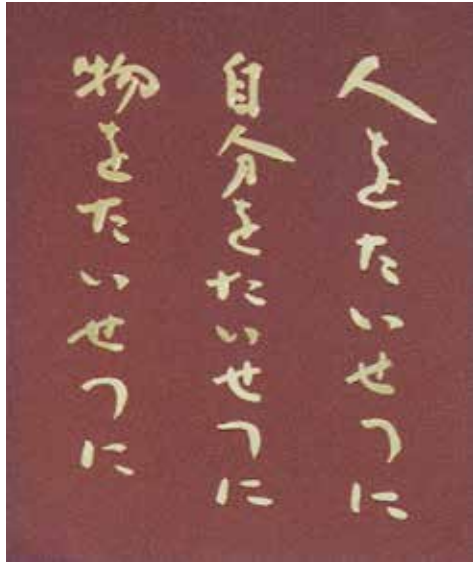
金光学園やつなみ保護者会
やつなみ編集部

印刷所

倉敷市船穂町船穂二〇九五―一
玉島活版所

発行所

浅口市金光町占見新田一三五〇
金光学園内
金光学園やつなみ保護者会



◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。



homepage



facebook



Instagram

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<https://www.konkougakuen.net>

E-mail info@konkougakuen.net